2023年度
アーバンデザイン科目
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧 ［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈Ｓ〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A0520】都市政策［杉崎　和久］春学期授業/Spring 1
【A0521】まちづくり論［杉崎　和久］秋学期授業/Fall 2
【A3482】文化地理学（１）［村田　陽平］春学期授業/Spring 4
【A3483】文化地理学（２）［村田　陽平］秋学期授業/Fall 5
経営学科専門科目 300 番台【A4363】経営組織論Ⅰ ［長岡　健］春学期授業/Spring 6
経営学科専門科目 300 番台【A4364】経営組織論Ⅱ ［長岡　健］秋学期授業/Fall 8
【A6116】UK: Society and People ［Brian Sayers］春学期授業/Spring 10
【A6117】UK: Society and People ［Brian Sayers］秋学期授業/Fall 11
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 12
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 13
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン［高見　公雄］春学期前半/Spring(1st half) 14
建築学科_専門科目_展開科目【B3011】建築フォーラム［下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人］秋学期授業/Fall 15
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3712】街づくりとデザイン（２０１９年度以降入学生）［渡邉　竜一］秋学期前半/Fall(1st half) 17
【C0625】フランス語アプリケーション［ル・ルー清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 18
【C0626】フランス語アプリケーション［ル・ルー清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 19
【C0627】フランス語アプリケーション［カレンス　フィリップ］春学期授業/Spring 20
【C0628】フランス語アプリケーション［ル・ルー清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 21
【C0910】中国の文化Ⅰ（現代中国社会）［曽　士才］春学期授業/Spring 22
【C0920】朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）［神谷　丹路］春学期授業/Spring 23
【C0932】ロシア・東欧の文化［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 24
【C0942】フランス語圏の文化Ⅰ（思想）［大中　一彌］秋学期授業/Fall 26
【C0943】フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）［岡村　民夫］春学期授業/Spring 28
【C0947】北米文化論（ケベック講座）［廣松　勲］秋学期授業/Fall 29
【C1046】地域協力・統合［大中　一彌］秋学期授業/Fall 30
【C2227】災害政策論［中川　和之］春学期授業/Spring 32
【C2310】環境倫理学Ⅰ ［吉永　明弘］秋学期授業/Fall 35
【C2322】環境表象論Ⅰ ［梶　裕史］春学期授業/Spring 36
【C2323】環境表象論Ⅱ ［梶　裕史］秋学期授業/Fall 38
【C2416】環境科学Ⅰ ［浦野　真弥］春学期授業/Spring 40
【C2417】環境科学Ⅱ ［藤倉　良］秋学期授業/Fall 42
【C2418】環境科学Ⅲ ［石渡　幹夫］サマーセッション/Summer Session 43
【C2500】環境管理論Ⅰ ［大岡　健三］春学期授業/Spring 44
【C2501】環境管理論Ⅱ ［大野　香代］春学期授業/Spring 46
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7304】コミュニティ社会論Ⅰ ［佐藤　恵］春学期授業/Spring 48
展開科目_選択必修（領域別）_ライフ【C7305】コミュニティ社会論Ⅱ ［佐藤　恵］秋学期授業/Fall 49
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5062】音響工学［御法川　学］春学期授業/Spring 50
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5091】環境工学［西井　啓典］春学期授業/Spring 52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6301】自然環境のしくみとその変貌Ａ［加藤　美雄］春学期授業/Spring 54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目【Q6302】自然環境のしくみとその変貌Ｂ［加藤　美雄］秋学期授業/Fall 56

POL200AC

都市政策

杉崎　和久

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】
１）都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
２）都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・オンデマンド教材を用いて行う。
・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日１８時までに提出する。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設１	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設２	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい土地利用規制１	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい土地利用規制２	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。授業では、オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70 %）、「②レポート課題」（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E 評価とする）。
・「①授業ごとに出題する課題」の評価は下記になる。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
・「②レポート課題」について
出題は、６月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
(締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。)
・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】
複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎　和久

授業形式：**講義**　｜　開講セメスター：**秋学期授業**/Fall
単位数：2 **単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】
１）地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
２）現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
３）都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・オンデマンド教材を用いて行う。
・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日１８時までに提出する。
・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第 3 回	防災まちづくり１（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第 4 回	防災まちづくり２（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第 5 回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第 6 回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第 7 回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第 8 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第 9 回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第 10 回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第 11 回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。
第 12 回	草の根まちづくり概論	地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。
第 13 回	草の根まちづくりの事例１	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。
第 14 回	草の根まちづくりの事例２	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】
・教科書は使用しない。オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】
澤木昌典・嘉名光市　編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本　第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】
・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70 %）、「②レポート課題」（30 %）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
・「①授業ごとに出題する課題」のについて
・評価は下記とする。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されれている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
・「②レポート課題」について
出題は、１１月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】
背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料
等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要な環境が必要となる。

【その他の重要事項】
・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】
In this lecture, we overview the system to control the space in the city.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space
B.Recognizing the contemporary problems of urban space
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】
Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

HUG200BF

文化地理学（1）

村田　陽平

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：**金 5/Fri.5**
春学期授業/Spring・2 単位　｜　配当年次：**2〜4 年**

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】
空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第 3 回	文化地理学とセクシュアリティ (1)	LGBT の空間経験 (1)
第 4 回	文化地理学とセクシュアリティ (2)	LGBT の空間経験 (2)
第 5 回	文化地理学とセクシュアリティ (3)	「女性専用車両」の意味
第 6 回	文化地理学とポリティクス（1）	政治という場所
第 7 回	文化地理学とポリティクス（2）	男性・異性愛の空間構造
第 8 回	文化地理学と広告（1）	自然な風景
第 9 回	文化地理学と広告（2）	身体と空間
第 10 回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第 11 回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第 12 回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第 13 回	文化地理学と現象学（1）	空間の認識論
第 14 回	文化地理学と現象学（2）	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会，￥3800 円＋税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF

文化地理学（2）

村田　陽平

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：金 5/Fri.5
秋学期授業/Fall・2 単位　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】
文化地理学のさまざまな知識や概念，方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用いて、順に読解しながら、文化地理学のさまざまなトピックを学び、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的
第 2 回	文化地理学の視点	空間・環境・景観
第 3 回	文化地理学研究の手順	視点としての空間
第 4 回	空間と環境と景観	さまざまな環境論
第 5 回	言語の文化地理学	言語と空間・環境・景観
第 6 回	自然と生業の文化地理学	自然・生業と空間・環境・景観
第 7 回	宗教の文化地理学	宗教と空間・環境・景観
第 8 回	民俗の文化地理学	民俗と空間・環境・景観
第 9 回	政治の文化地理学	政治と空間・環境・景観
第 10 回	都市の文化地理学	都市と空間・環境・景観
第 11 回	観光の文化地理学	観光と空間・環境・景観
第 12 回	性の文化地理学	性と空間・環境・景観
第 13 回	文化地理学の前線と現代の文化	デジタル文化
第 14 回	文化地理学の応用	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
森正人・中川正 (2022) ：『文化地理学ガイダンス［改訂版］』（ナカニシヤ出版）￥2400 ＋税

【参考書】
中俣均編 (2011) ：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥4180

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】
This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

MAN300FB

経営組織論Ⅰ

長岡　健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［春学期授業/Spring］

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】
（1）多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
（2）経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
（3）組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
春学期の授業（経営組織論Ⅰ）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という４つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、２週を１モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行いますが、受講者が主体的に考え、発言する機会（twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第 3 回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第 4 回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 5 回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第 6 回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第 7 回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 8 回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第 9 回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第 10 回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 11 回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第 12 回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第 13 回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第 14 回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（1）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
（2）テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
（3）各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計４回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中４０％）。
（4）本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】
以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この３冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。
（1）金井壽宏 『経営組織』（日経文庫） 日本経済新聞社
（2）ロビンス，S. P.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
（3）グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（1）最終レポート（1回）：４０％
（2）振り返りレポート（4回）：４０％
（3）ゲスト講義へのコメント（4回）：２０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
（1）zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
（2）受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
（3）上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】
（1）オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
（2）『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】
（1）プロフィール
http://www.tnlab.net/profile.html
（2）ゼミ活動
http://www.tnlab.net/seminar/
（3）フェイスブック
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
（4）ツイッター
https://twitter.com/TakeruNagaoka

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]
The objectives of this course are :
(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

経営組織論Ⅱ

長岡　健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目　3～4 年次／ 2 単位　［秋学期授業/Fall］

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないでしょうか。
この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】
（1）多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
（2）経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
（3）組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】
秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という４つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、２週を１モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行いますが、受講者が主体的に考え、発言する機会（twitter を使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第 2 回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原理
第 3 回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第 4 回	事例研究①	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 5 回	組織文化①	企業文化論から見た日本的経営の特徴
第 6 回	組織文化②	日本的経営から働き方改革への移行
第 7 回	事例研究②	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 8 回	社会と組織①	働き方の変化（第四次産業革命とSDGs）
第 9 回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第 10 回	事例研究③	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 11 回	事例研究④	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第 12 回	変化と適応①	組織変革を阻む振る舞いとマインドセット
第 13 回	変化と適応②	学習棄却（アンラーニング）の意味と方法
第 14 回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書（1）『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
（2）テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
（3）各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計４回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中４０％）。
（4）本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】
以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この３冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。
（1）金井壽宏 『経営組織』（日経文庫） 日本経済新聞社
（2）ロビンス，S. P.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
（3）グロービス経営大学院 『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』 ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】
（1）最終レポート（1回）：４０％
（2）振り返りレポート（4回）：４０％
（3）ゲスト講義へのコメント（4回）：２０％

【学生の意見等からの気づき】
今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】
（1）zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
（2）受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
（3）上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】
（１）オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
（２）『経営学総論Ⅰ/Ⅱ』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】
（１）プロフィール
http://www.tnlab.net/profile.html
（２）ゼミ活動
http://www.tnlab.net/seminar/
（３）フェイスブック
https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9
（４）ツイッター
https://twitter.com/TakeruNagaoka

【Outline (in English)】
[Course Outline]
In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.
In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]
The objectives of this course are :
(1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
(2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]
Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

ARS100ZA

UK: Society and People

Brian Sayers

Credit(s)：2　|　Semester：春学期授業/Spring　|　Year：1～4
Day/Period：火 4/Tue.4
その他属性：〈グ〉〈ア〉

【Outline and objectives】
This course will provide an introduction to the culture and society of contemporary Britain. Students will acquire knowledge about Britain: it's geography, climate, history, traditional culture, religion, political system, society, Britishness, and so on. The course will survey British society following globalization after Thatcher's government. Britain in the 70's was a nightmare, economically crippled, politically in a quagmire, and yet culturally vibrant. Thatcher, as prime minister (1979-1990), changed Britain drastically in the 80's. She insisted on free enterprise and deregulation, employed monetarist policies, privatized nationalized industries, passed legislations to weaken trade unions' political power, and was tenaciously skeptical about the deepening of European integration. However, socially, she was conservative and put an emphasis on the importance of traditional family, a self-help work ethic and community. Whether her policies worked well or not is still in discussion, but she is commonly thought to have prepared the way for globalisation, economic success, and the rise of so-called Cool Britannia. Political issues are often related to nation, religion, immigration, ethnicity, class, globalisation, gender, youth culture, and so on.
With UK as a case theme, we also understand the diversity of cultures around the world and the significance of enhancing communication with people from other cultural backgrounds.

【Goal】
Students will (1) acquire the general knowledge of the society and people in contemporary Britain, (2) learn how one of the most globalized nations has gone through the changes, and (3) think about the new realities and the implications of the changes. By comparing the situations in Britain and Japan, students will gain clearer perspectives on complex issues common in the most advanced and affluent countries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Students will attend lectures, read related materials, write short essays, watch videos and films, and have two written examinations.
Feedback will be given through Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	An Introduction	An Introduction
2	The Country	Geography, climate and history
3	British Attitudes	Characteristics of its people
4	Ethnicity and Identity	The English, the Celts and ethnic minorities The class compares UK and Japan with regard to the conservation of culture
5	Politics	The British Constitution and its government
6	Religion	Christians and non-Christians
7	Course Review and Mid-term Examination	Course review, students' inquiries and discussions Written examination
8	Monarchy and Class Society	History and changing attitudes The class is expected to compare UK and Japan in these aspects, discussing with international students
9	Britain in Films	People, society and culture in films
10	The Economy	The economy after Thatcher
11	Britain in the World	Foreign policy and its relations with the US and EU
12	Family Life	Changing mores, education and social services
13	Culture	Sport, leisure, and the arts The class is expected to compare UK and Japan in these aspects, discussing with international students
14	Course Review End-term Examination	Students' inquiries and discussions Course review Written examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbooks will be used. The lecturer will provide handouts and reading materials.

【References】
Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn). Cambridge: Polity Press.
Leventhal, Fred M. (ed) (2002). *Twentieth-Century Britain: An Encyclopedia* (rev. edn). New York: Peter Lang.
Oakland, John. (2015). *British Civilization: An Introduction* (7th edn). London: Routledge.
Oakland, John. (2001). *Contemporary Britain: A Survey with Texts*. London: Routledge.
Higgins, Michael, et al.(eds) (2010).*The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.
O'Driscoll, James. (2009). Britain For Learners of English. Oxford: OUP.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (30%), a writing assignment (20%), and exams (50%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】
None.

【Prerequisite】
None.

ARS100ZA

UK: Society and People

Brian Sayers

Credit(s)：2　|　Semester：秋学期授業/Fall　|　Year：1〜4
Day/Period：火 4/Tue.4

その他属性：〈グ〉〈ア〉

【Outline and objectives】
This course will provide an introduction to the culture and society of contemporary Britain. Students will acquire knowledge about Britain: it's geography, climate, history, traditional culture, religion, political system, society, Britishness, and so on. The course will survey British society following globalization after Thatcher's government. Britain in the 70's was a nightmare, economically crippled, politically in a quagmire, and yet culturally vibrant. Thatcher, as prime minister (1979-1990), changed Britain drastically in the 80's. She insisted on free enterprise and deregulation, employed monetarist policies, privatized nationalized industries, passed legislations to weaken trade unions' political power, and was tenaciously skeptical about the deepening of European integration. However, socially, she was conservative and put an emphasis on the importance of traditional family, a self-help work ethic and community. Whether her policies worked well or not is still in discussion, but she is commonly thought to have prepared the way for globalisation, economic success, and the rise of so-called Cool Britannia. Political issues are often related to nation, religion, immigration, ethnicity, class, globalisation, gender, youth culture, and so on.
With UK as a case theme, we also understand the diversity of cultures around the world and the significance of enhancing communication with people from other cultural backgrounds.

【Goal】
Students will (1) acquire the general knowledge of the society and people in contemporary Britain, (2) learn how one of the most globalized nations has gone through the changes, and (3) think about the new realities and the implications of the changes. By comparing the situations in Britain and Japan, students will gain clearer perspectives on complex issues common in the most advanced and affluent countries.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】
Students will attend lectures, read related materials, write short essays, watch videos and films, and have two written examinations.
Feedback will be given through Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	An Introduction	An Introduction
2	The Country	Geography, climate and history
3	British Attitudes	Characteristics of its people
4	Ethnicity and Identity	The English, the Celts and ethnic minorities The class compares UK and Japan with regard to the conservation of culture
5	Politics	The British Constitution and its government
6	Religion	Christians and non-Christians
7	Course Review and Mid-term Examination	Course review, students' inquiries and discussions Written examination
8	Monarchy and Class Society	History and changing attitudes The class is expected to compare UK and Japan in these aspects, discussing with international students
9	Britain in Films	People, society and culture in films
10	The Economy	The economy after Thatcher
11	Britain in the World	Foreign policy and its relations with the US and EU
12	Family Life	Changing mores, education and social services
13	Culture	Sport, leisure, and the arts The class is expected to compare UK and Japan in these aspects, discussing with international students
14	Course Review End-term Examination	Students' inquiries and discussions Course review Written examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】
No textbooks will be used. The lecturer will provide handouts and reading materials.

【References】
Abercrombie, Nicholas and Alan Warde. (2000). *Contemporary British Society* (3rd edn). Cambridge: Polity Press.
Leventhal, Fred M. (ed) (2002). *Twentieth-Century Britain: An Encyclopedia* (rev. edn). New York: Peter Lang.
Oakland, John. (2015). *British Civilization: An Introduction* (7th edn). London: Routledge.
Oakland, John. (2001). *Contemporary Britain: A Survey with Texts*. London: Routledge.
Higgins, Michael, et al.(eds) (2010).*The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: CUP.
O'Driscoll, James. (2009). Britain For Learners of English. Oxford: OUP.

【Grading criteria】
Evaluation will be based on class participation (30%), a writing assignment (20%), and exams (50%). More than two unexcused absences will result in failure of the course.

【Changes following student comments】
None.

【Prerequisite】
None.

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1～4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1～4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見　公雄

開講時期：**春学期前半**/Spring(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】
都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
第 1 回から第 6 回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第 7 回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第 10 回以降に 1 回程度の現地見学を折り込む。
作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第 11 回、第 12 回には貸与 PC を持参すること。他学部の学生については PC を貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その 1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいうべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その 2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その 3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その 4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その 1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その 2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その 3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その 4/都市拠点の小空間	都市の枢要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する
12	スケッチのデジタル化	演習その 1～4 で描いたスケッチのいずれかを PC を用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドロー系ソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC 上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の投影資料は、Hoppii にアップされる。前回分を Hoppii よりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭＋都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源＋高見公雄＋篠原修編著

【成績評価の方法と基準】
各回のミニテスト (50 %) 並びに作図課題 (50 %) による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
第 7 回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】
都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】
This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.
[learning goal]
Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.
Get an overview of the history of urban design.
Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.
[Learning activities outside the classroom]
Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.
The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
[Evaluation Criteria/Policy]
Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越　武人、赤松　佳珠子、小堀　哲夫、安積　伸、渡邉　竜一、山道　拓人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　選択・必修の別：**選択**

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈Ｓ〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。
デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？
ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうものなのか？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】
以下の能力を習得する。
1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しが特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多次元的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を６回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で６回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム１	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム２	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム３	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム４	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム５	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム６	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜指示。

【参考書】
講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】
講演メモとレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
６回のレポート（講演メモ＋講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90 %）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10 %）として加点される。合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】
聴講しながらその要旨をノートＰＣにメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】
実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 6 名の講師を選定し招聘している。2021 年度よりデザイン工学部 3 学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】
In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What is the act of design? What is the relationship between design and society?
What kind of accumulation of effort is there to complete one design?
Is there a boundary between the realms of architecture and product design?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.
[Learning Objectives]
Acquire the ability to
1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.
2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.
3) Questions and comments about the lecture on the spot
[Learning activities outside of classroom]

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
[Grading Criteria /Policy]
Your overall grade in the class will be decided based on the following six reports: 90%、in class contribution: 10%

CST300NC

街づくりとデザイン（２０１９年度以降入学生）

渡邉　竜一

開講時期：**秋学期前半**/Fall(1st half)　｜　選択・必修の別：**選択**
備考（履修条件等）：**都市：建築士**

その他属性：〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市化の時代に進められた都市基盤施設の充実と宅地供給といった市街地整備の図式が変化していく中、街づくりの課題や方法は多様化している。この授業では土木だけでなく、建築、ランドスケープ、メディア、映像、アートなど他分野含めたの外部講師をゲストに招きながら、授業を進めます。

【到達目標】
現代における街づくりは、ハードの整備だけでなく、柔軟な発想とコミュニケーション能力が求められる。豊かな環境を発想し、多くの人と共有していくプロセスの一端から、自ら課題を見つけ出し、考える力を身につける。

【修得できる能力】
（A）歴史・文化・自然の理解・尊重
（B）技術者倫理
（C）工学基礎学力
（D）専門基礎学力　20%
（E）専門知識の活用・応用能力　60%
（F）総合デザイン能力　20%
（G）コミュニケーション能力
（H）継続的学習能力
（I）業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は、オンラインとします。シラバスとは異なる授業計画とします。詳細は Hoppii に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	街づくりと呼ばれる分野の概観と当授業で扱う内容、その方向性などについて講義する。
2	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
3	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
4	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
5	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
6	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
7	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
8	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
9	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
10	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
11	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
12	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
13	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ
14	ゲストレクチャー	ゲストレクチャーおよびディスカッション・対話を通じてデザインの先端を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
進捗に合わせ必要に応じて紹介する。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席（70 %）、授業態度・意欲（30%）で評価。
欠席 2 回以上または提出物未提出は単位取得を認めない (評価 D)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし。

【Outline (in English)】
In this course, we explore the man-made environment from diverse disciplinary backgrounds and points of view, engaging in intense design communication, extensive research of the present environment, and studies of urban history and theory.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.
Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Faisons connaissance !	Présentation du manuel et des participants Organisation et calendrier de la classe.
2	Unité 3 L1 Unis pour la vie?	Le plus-que-parfait Les liens de famille Raconter un souvenir
3	Unité 3 L2 Question de génération	Participe passé Générations et éducation
4	Unité 3 L3 Des amis pour toujours	Discours indirect au présent Les relations humaines
5	Unité 3 L4 Se retrouver et se séparer	Rencontres, désaccords, disputes
6	Unité 4 L1 Fait maison	Hypothèse Les loisirs créatifs
7	Unité 4 L2 Mon art de vivre	Le conditionnel présent et l'expression du souhait
8	Unité 4 L3 Action!	Il faut que + subjonctif Les sports extrêmes
9	Unité 4 L4 C'est pour vous?	Le sport Donner des conseils
10	Unité 5 L1 Sur les bancs de la fac	La mise en relief Les études
11	Unité 5 L2 Ce job est pour moi	Adverbes et passé Le travail
12	Unité 5 L3 Motivés!	Le travail: les conditions de travail
13	Unité 5 L4 Vous êtes convaincu?	Se présenter dans le cadre professionnel
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テスト:約 30 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 25%。 尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の 欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
(初めての授業なので，該当しない。)

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication. Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.30 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.25%。

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野　ブレンダン

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français déjà confirmé (A2/B1). Les étudiants travailleront les compétences de compréhension et de production à l'oral et à l'écrit afin d'améliorer leur niveau de communication et d'expression. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir leurs connaissances sur les cultures francophones.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités de lecture et d'expression orales et écrites. Il permet la préparation des examens du DELF (préparation directe au niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
ODYSSÉE B1 met l'accent sur la compréhension et la communication orales, sans oublier l'écrit et une révision systématique de la grammaire. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance. Cette méthode permet aussi l'auto-apprentissage en dehors des cours grâce aux compléments proposés.
Enfin, les contenus proposés sont très variés et permettent de découvrir de nombreux aspects culturels de la francophonie tout en voyageant autour du monde.
この授業では，作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Présentation du cours Auto-évaluation des étudiants	Organisation et calendrier de la classe TCF
2	Unité 6 L1 Mieux vaut prévenir que guérir	L'hypothèse Le corps et les maladies
3	Unité 6 L2 Tout va bien, docteur?	Les maladies Donner des précisions
4	Unité 6 L3 Les paradoxes de la santé	La place des pronoms Allergies et alimentation
5	Unité 6 L4 La santé avant tout	Le conditionnel pour le conseil Les démarches santé
6	Unité 7 L1 Pour tous les goûts	L'hypothèse incertaine Les styles vestimentaires
7	Unité 7 L2 La mode, liberté ou contrainte?	Subjonctif et opinions négatives Critiques et jugements
8	Unité 7 L3 La mode change les mentalités	Subjonctif et volonté, sentiments
9	Unité 7 L4 Parlons mode	La critique de mode
10	Unité 8 L1 A la une	La nominalisation Médias et actualité
11	Unité 8 L2 Faits divers	Le passif Le fait divers
12	Unité 8 L3 Info ou intox?	Discours indirect Interviews et fausses nouvelles
13	Unité 8 L4 Place au débat	Le débat
14	Bilan	Projet Entraînement au DELF B1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, pour le cours suivant (réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ODYSSÉE, Niveau B1 ; A. Bredelet, Bruno Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International
ISBN : 978-2090355802

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé
(仏仏辞典の持参が望ましい)

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テスト:約 30 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 20 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 25%。 尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の 欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり，遅延証明 は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
(初めての授業なので，該当しない。)

【その他の重要事項】
Ce cours est particulièrement adapté aux étudiants ayant déjà effectué un séjour en France ou qui visent le concours des étudiants d'échanges (派遣留学).

【Prerequisite】
Un niveau de français A2, au minimum, est nécessaire pour participer à ce cours.

【Outline (in English)】
This course is for intermediate students with A2/B1 level in French. The participants will improve their level of communication and expression, through activities using oral and written communication.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.30 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.25%。

LANf300GA

フランス語アプリケーション

カレンス　フィリップ

配当年次／単位：3〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業/Spring**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire. Les compétences de compréhension et de production à l'oral seront travaillées en priorité afin d'améliorer le niveau de communication et d'expression. Des exercices de grammaire et de vocabulaire seront également proposés pour renforcer le niveau général en français. Les thèmes étudiés permettront aussi d'élargir les connaissances sur la culture française.

【到達目標】
The goals of this course are as follows :
A.Develop oral (mainly) capacity in French language at intermediate level.
B.Know how to use French in concrete situations of everyday life.
C.Learn more about France and French customs.
This course can also help you to prepare exams as DAPF Jun 2Kyu or DELF A2 / B1.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
LA COMMUNICATION PROGRESSIVE DU FRANÇAIS est un manuel qui met l'accent sur la compréhension et la communication orales, à travers l'étude thématique d'actes de paroles mais sans sacrifier l'écrit. C'est un manuel progressif qui permet à tout étudiant de progresser avec confiance : dialogues, souvent humoristiques, et expressions en page de gauche, et en page de droite : exercices de difficulté croissante.
S'il y a des modications de la progression des cours et des échéances pour les tests, elles seront annoncées sur le site du système de soutien pour le cours à distance "Hoppi".

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Prise de contact Explications sur le programme du cours L1 p8 Faire le marché Il faut/la quantité	Tour de classe pour établir le niveau de chaque étudiant et ses demandes particulières. (Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
②	L2 p12 Passer une commande Prépositions “à”“de" Conditionnel+bien	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
③	L3 p16 Les prix Question familière, Pronoms démonstratifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
④	L5 p22 Modifier une réservation Diverses prépositions Infinitif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑤	L6 p24 A la banque Complément de nom ”de”	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑥	L7 p26 Echanger, se faire rembourser Expressions de temps + passé composé	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑦	Test de mi-trimestre	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test intermédiaire
⑧	L9 p32 Faire des comparaisons Verbes construits sur des adjectifs	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑨	L10 p38 Se renseigner Interrogation indirecte	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑩	L12(1) p44 Parler des lieux 1 Agence immobilière Subjonctif ou indicatif	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑪	L13 p50 Résilier un contrat Comparaison Expression du futur	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑫	L15 p58 Déclarer un vol, un accident Forme passive	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑬	L16 p62 Parler de sa santé Verbes pronominaux	(Exercices en relation avec le thème du jour ; jeu de rôles)
⑭	Test final	- Reprise des thèmes - Questions - Jeux de rôles pouvant servir de test final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】
Communication Progressive du Francais - A2 B1 Intermédiaire 2eme Edition: Livre de l'élève + Cd-audio,
Editions Clé International, Claire MIQUEL
(ISBN 978-209-038447-5)

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % , and in class contribution 10 %.

【学生の意見等からの気づき】
Un accent particulier sera mis sur la prononciation.

【学生が準備すべき機器他】
CD

【その他の重要事項】
On aura un exemple du manuel et de son organisation en cliquant sur le lien suivant http://extranet.editis.com/it-yonixweb/images/330/art/doc/f/fbb51c54d7c6363531333636353638383434393 5.pdf

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of a communication skill in French at intermediate level (A2/B1). At first, we will strengthen comprehension and oral capacity. Additional drills and a lot of panel of exercises will be proposed to reinforce the grammar level and the vocabulary. The different topics taken from every-day life situations will give opportunities to learn more about French culture.
Students will be expected to prepare the next class and to have complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided on the following :
Mid-term and Term end examination : 50 %, Assignments : 40 % , and in class contribution 10 %.

LANf300GA

フランス語アプリケーション

ル・ルー清野　ブレンダン

配当年次／単位：**3〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること**

その他属性：〈他〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Ce cours s'adresse à des étudiants d'un niveau de français intermédiaire (A2/B1). A travers différents types d'exercices, les étudiants pourront développer et renforcer leurs compétences de compréhension et de production à l'oral ainsi qu'à l'écrit. Ils pourront aussi, à travers les thèmes étudiés, compléter et élargir leurs connaissances sur les cultures francophones, notamment à travers l'étude intensive d'un film.

【到達目標】
Ce cours permet à des étudiants déjà assez confirmés (au moins 2 ans de pratique du français) de poursuivre leur apprentissage : enrichissement du vocabulaire, développement des capacités d'écoute et d'expression orale et écrite. En lien avec les autres cours de フランス語アプリケーション, il permet la préparation des examens du DELF (niveau B1, voire B2) et du 仏検 (2 級 voire 準 1 級).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
Les étudiants réaliseront diverses activités à partir de scènes tirées d'un film (présenté en début de semestre): dialogues à trous, description de scènes, questions sur le contenu..., leur permettant de travailler à la fois la compréhension orale, l'expression orale, mais aussi l'expression écrite.
いわゆる「Contents based learning」というアプローチで，具体的にはフランス語の映像を教材に，台詞を聞き取って理解した上で，様々な興味深い場面について質問に答えたり，意見を述べたり，会話・議論をしたりします。その中から出てきた重要な文法項目を復習・学習したり，面白いフレーズに対して例文を作ったりもします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Introduction	Présentation du cours, des participants et du film étudié en cours
②	Scènes 1 à 6	Présentation des personnages 作文 1 ： décrire une personne
③	Scènes 7-8	Premier déplacement des personnages
④	Scènes 9-10	La famille des personnages
⑤	Scène 11	作文 2 ： imaginer la suite de l'histoire
⑥	Scènes 12-13	Deuxième déplacement des personnages
⑦	Scènes 14-15	La nouvelle vie des personnages
⑧	Scènes 16 à 18	Le nouveau travail des personnages
⑨	Scènes 19 à 21	作文 3 ： Résumer des éléments d'information
⑩	Scènes 22 à 25	Tentative d'évasion
⑪	Scène 26	Le rassemblement 作文 4 ： Décrire une scène au passé
⑫	Scène 27	Le marchand ambulant
⑬	Scènes 28-29	Tentative de fuite et punition
⑭	Scène 30	Le Code noir

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Une participation active en classe est indispensable. Des exercices ou tâches à réaliser seront donnés, à chaque cours ou presque, en cours ou pour le cours suivant (regarder les scènes suivantes, réviser le vocabulaire, revoir un point de grammaire, écrire un petit texte, préparer un exposé, etc.).
予習・復習・積極性は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Documents préparés et distribués en cours ou sur "hoppi" par l'enseignant.

【参考書】
Dictionnaire français-français recommandé (仏仏辞典の持参が望ましい), et au minimum un dictionnaire français-japonais / japonais-français （少なくとも和仏／仏和辞典は必須）

【成績評価の方法と基準】
・宿題，ミニ発表，その他の小テストや課題:約 30 %
・リーディングマラソン (フランス語多読):約 25 %
・作文:約 25 %
・出席点:約 20%。 尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり，遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
(初めての授業なので，該当しない。)

【Prerequisite】
Avoir fait deux ans de français, ou justifier d'un niveau A2 au minimum.

【Outline (in English)】
The purpose of this course is the development of communication skills (oral and written) in French for intermediate level (A2/B1).
Through different kinds of activities mainly based on a movie (listening, ask and answer questions, reading, writing),students will strengthen their comprehension and production capacities in order to develop both oral and writing expression.
Through the selected themes, students will also be able to develop their knowledge about francophone cultures.
Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).
Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.
Grading criteria are as follows:
・Homework, short tests and presentations: app.30 %
・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %
・Essays: app.25 %
・Attendance: app.25%。

ARSe200GA

中国の文化Ⅰ（現代中国社会）

曽　士才

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国は歴史的、文化的そして経済的にも日本と関係の一番深い国である。しかし、マスメディアを通して報道される中国はあまりにも政治経済に偏りすぎており、しかも表面的なものが多い。中国の一般庶民の日常生活や物の考え方についてどれだけ日本人は知っているのだろうか。この授業ではマスメディアとは異なった物差しで中国を紹介し、中国を実物大で理解できるようにすること目指している。

【到達目標】
中国に関するリテラシーの力を高め、実物大の中国を知ることによって中国に対するステレオタイプな見方から自由になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
授業では都市と農村、人の移動、家族と婚姻、信仰と習俗、日本と中国の５つのテーマに沿って、庶民生活の次元に立って、近代化や都市化による社会変容や価値観の変化、日中関係の現状を紹介する。クイズの解答例など課題へのフィードバックは Hoppii の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	多様な風土	北と南の違い、水問題、南水北調
第 2 回	都市と農村（1）	経済格差、三農問題、社会主義新農村建設
第 3 回	都市と農村（2）	リテラシーの現状、学校教育、大学生の就職難
第 4 回	都市と農村（3）	拡大する中産階級、政治社会意識
第 5 回	人の移動（1）	都市の出稼ぎ者、留守児童
第 6 回	人の移動（2）	新型都市化、ポイント制度、強制移住
第 7 回	家族と婚姻（1）	伝統的家族制度、変化する家族像
第 8 回	家族と婚姻（2）	新人類「80 後」「90 後」、人口政策の転換
第 9 回	家族と婚姻（3）	高齢化社会、老人扶養
第 10 回	信仰と習俗（1）	宗教事情、国家と宗教
第 11 回	信仰と習俗（2）	風水思想と実践
第 12 回	日本と中国（1）	中国の近代化と日中協力、構造変化する日中関係
第 13 回	日本と中国（2）	強制連行、戦争の記憶
第 14 回	日本と中国（3）	反日の背景、中国人の日本観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業テーマに関連した課題論文を読む。受講者は参考書所収の論文を読み、授業への理解を深める。理解度を自己評価するために、学習支援システムの「課題」にあるクイズに回答する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材（学習支援システムの「教材」に掲載する）。

【参考書】
A 高井潔司・藤野彰・遊川和郎『現代中国を知るための 40 章【第 4 版】』明石書店 2012 年
B 藤野彰、曽根康雄『現代中国を知るための 44 章【第 5 版】（エリア・スタディーズ）』
　明石書店 2016 年
C 藤野彰『現代中国を知るための 52 章【第 6 版】』明石書店 2018 年

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを使ったクイズへの回答（10 %）と期末に課すレポート（90 %）で成績評価を行う。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。なお、クイズへの回答は成績評価の大前提となる。

【学生の意見等からの気づき】
クイズへの解答例を掲示板にアップし、受講生の復習に活用できるようにする。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course deals with the changing lifestyle and values of Chinese people from viewpoints of city and countryside, migration, family and marriage, religion and custom, China and Japan.
【Learning Objectives】
At the end of the course, participants are expected to understand the real China without any prejudice.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to read the relevant chapter(s) from the text and answer to the quiz. Your required study time is two hours for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Answer to the quiz（10 %）and term-end report/ dissertation（90 %）.

HIS200GA

朝鮮語圏の文化Ⅰ（朝鮮半島の文化史）

神谷　丹路

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮半島は，日本の隣国、隣人であり、地理的にも歴史的にも、日本と密接な関係のある地域です．この授業では，朝鮮半島の文化や歴史、社会についての基礎事項を学びます．近年、朝鮮半島は、アジアへ、また世界への影響力を増しています。長い歴史の中で、朝鮮半島は、中国の影響を受けつつも、独自の文化・歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきました。朝鮮半島についての基本的な知識を身につけ、あるべきパートナーシップとは何かを探求することを目的とします．

【到達目標】
朝鮮半島独特の文化や歴史に関する基礎知識を身につけることによって，日本など周辺国との類似性や差異性についての考察ができるようになり、また東アジア全体を見渡すことができる広い視野を獲得します．さらに興味のある分野について，自分から引き続き勉強を続けていけるような力を身につけます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
基本的な流れは、以下の通りである。
朝鮮半島の地理、文化、歴史を概観し，基礎的な知識を確認する。その上で、朝鮮半島と日本とのあいだの文化的相互作用、共通点などに着目するとともに，一つの事象であっても、日本と朝鮮半島では、とらえかたが相違することもあり、それらを俯瞰的な視点から学ぶ。視覚資料を多く取り入れた授業資料を用い、幅広い、朝鮮半島の文化、歴史、社会の知識を吸収する。小テストを随時実施し、間違いの多かった問題などについては、次の授業時に解説する。なお、この授業は朝鮮に関して開講されている講義形式の専門科目のうち、もっとも入門的なものの一つである．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入／朝鮮・韓国とは	・朝鮮半島の２つの国家 ・朝鮮半島の地理 ・国のシンボル、言語、祝日 ・建国神話、昔話
2	民俗文化・伝統文化	・ユネスコ無形文化遺産 ・アリラン、パンソリ、ナムサダン、綱渡り、カンガンスルレ ・綱引き、農楽 ・キムチ
3	伝統行事と儒教文化	・正月、秋夕 ・葬送儀礼 ・儒教祭祀 ・現代社会と儒教 ・その他の宗教
4	古代から中世へ	・伽耶と倭 ・百済・高句麗と日本 ・新羅と日本 ・高麗と日本
5	中世から近世へ	・朝鮮王朝時代と日本 ・ハングル創製 ・科学、学問の発達 ・国難：豊臣秀吉、李舜臣 ・善隣友好外交、朝鮮通信使の訪日
6	朝鮮王宮と近代	・景福宮（王宮の再建から王妃虐殺事件まで） ・徳寿宮（大韓帝国の近代） ・昌徳宮（最後の国王、植物園、動物園）
7	日本の植民地時代	・韓国統監伊藤博文 ・在朝日本人 ・「土地調査事業」 ・三一独立運動 ・食糧「増産」と農民 ・戦時労務動員
8	解放から 1950 年代	・38 度線と東西冷戦 ・朝鮮戦争 ・南北分断の固定化 ・離散家族
9	1960 年代、70 年代	・海外出稼ぎ ・日韓国交正常化 ・ベトナム戦争と韓国 ・財閥の形成
10	1980 年代、90 年代、2000 年代	・社会の葛藤と民主化 ・民主化宣言 ・88 年オリンピック ・労働運動 ・済州島四三事件の真相究明（歴史の再評価）
11	朝鮮沿岸漁業の百年	・朝鮮の漁業 ・20 世紀前半日本漁民の朝鮮出漁 ・李ラインと日本漁船 ・日韓漁業協定 ・領土問題 ・済州島の海女
12	歴史の和解とは	・日本の戦争責任問題 ・日韓の摩擦 ・市民の文化交流 ・サブカルチャー ・韓国の日本語学習、日本の韓国・朝鮮語学習
13	世界のコリアン・韓国の外国人	・外国人労働者 ・多文化家庭 ・海外留学 ・在外コリアン
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
朝鮮語の知識は必要ありません．朝鮮・韓国に関する報道に関心を持ち，関連する本を積極的に読んでください．本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、授業資料を配布します．

【参考書】
参考文献はその都度指示します．
『新訂増補　韓国朝鮮を知る事典』（平凡社）2014 年
『日韓でいっしょに読みたい韓国史』（明石書店）2014 年
『向かいあう日本と韓国・朝鮮の歴史　前近代編下』（青木書店）2006 年
『学び、つながる日本と韓国の近現代史』（明石書店）2013 年

【成績評価の方法と基準】
授業の理解度を確認するために、随時、課題、小テストを行う。学期末には、学習のまとめとして期末試験を行う。課題および小テスト（30 %）、期末試験（70 %）で評価する方針である。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
現在進行形の日本と朝鮮半島問題についても、随時、授業と関連付けて提示する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
ＳＡ韓国２年生はかならず受講してください．他学部の学生の受講も歓迎します．なお順序と内容に若干の変更がある場合があります．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, the students will learn the basics of culture, history, and society on the Korean Peninsula.
< Learning Objectives >
The aim of this course is to help to acquire historical and cultural basic understanding of the Korean Peninsula. Since the Korean Peninsula is the nearest neighbor region for Japan, it is very important to firmly understand the Korean Peninsula for peaceful stability in East Asia.
< Learning activities outside of classroom >
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 50%、Little exams ： 50%.

ARSb300GA

ロシア・東欧の文化

佐藤　千登勢

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシアといわゆる東欧諸国は、宗教、民族、イデオロギー、国家間の勢力均衡などの問題により、絶えず、支配被支配関係をさまざまなかたちで築いてきました。ソ連邦崩壊後、大方が EU 加盟を果たした東欧諸国。しかしそのなかで「優等生」と位置付けられてきたポーランド、そしてハンガリーが今では EU のなかで足並みを揃えない傾向にあります。なぜでしょうか。
この講義では、ロシアと東欧諸国（おもに、ハンガリー、ポーランド、チェコ）それぞれの民族的差異や特殊性を、主に文化や風土、歴史を通して見る一方で、それぞれの関係性に焦点をあてる作業も行い、文化の相貌を確認すると同時にナショナリズムの問題を提起していきます。なお 2023 年度は、SA ロシア代替として実施予定のエストニア短期語学研修に向けて、エストニアの文化や歴史も概観していきます。さまざまな情報から、国家や民族のありかた、複数の国家や民族が共生するとはいかなることかを学生のみなさんに考えてほしいと思います。
本講義は、SA ロシアの事前学習科目なので SA ロシアの２年生は必ず履修してください。

【到達目標】
この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。学生のみなさんは、つねに問題意識や批判的観点をもちながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
本講義で扱う「東欧」は、ハンガリー、ポーランド、チェコが中心となります（他の東欧諸国については、適宜、言及します）。2023 年度はエストニア短期語学研修実施て予定のため、エストニアも扱います。これらの国々の歴史や世界遺産、文化（音楽、映画、文学、建築、美術）、現代事情を視聴覚資料を通して東欧諸国とソ連・ロシアとの関係性を見ていくと同時に、ナショナリズムや現代の社会問題を提起していきます。私たちにとってもアクチュアルな問題として捉えて考えていくようにしましょう。毎回、コメントシートに見解をまとめてもらいますが、そのなかで興味深いコメントを選択し、翌週の授業にてフィードバックしつつ、みなさんと共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアと東欧諸国の言語・宗教／日本とポーランドの関係の一断面について。
第 2 回	ハンガリーの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被支配と反抗の歴史を中心にハンガリーを概説。ハンガリー動乱、ヨーロッパ・ピクニック事件など。
第 3 回	ハンガリー：街並みと風土／世界遺産と現代のハンガリー	ハンガリーの歴史を伝える旧集落、世界遺産の数々、温泉文化について映像をまじえて解説。
第 4 回	ハンガリー：音楽と映画をめぐって	ロマ楽団からリストやバルトークの音楽について。歌謡「暗い日曜日」の謎をモチーフにした映画、サボー・イシュトヴァーン、ゴダ・クリスティナ、パールフィ・ジョルジ、タル・ベーラらの独特な作風の映画を紹介。
第 5 回	ポーランドの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	地図上での国家消滅に至る被支配とこれに対する蜂起、反抗の歴史からポーランドを概観。
第 6 回	ポーランド：街並みと風土、そして歴史からみる音楽と映画	ワルシャワ、クラクフ歴史地区の街並み、建築、そしてオシフィエンチム（アウシュヴィッツ）の収容について。伝統音楽からショパンの音楽を歴史的背景と関連付けながら鑑賞。アンジェイ・ワイダ作品の一部を鑑賞しながら政治や歴史と映画について考える。
第 7 回	ポーランド：社会を反映する映画	ポランスキー、キェシロフスキ、スコリモフスキ、シュモフスカ、パヴリコフスキらの映画を一部鑑賞しつつ、そこに描かれる社会情勢を汲みとる。
第 8 回	チェコの歴史概観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からチェコを概観。映画『存在の耐えられない軽さ』『プラハ！』に描かれるチェコ事件について。
第 9 回	チェコ：街並みと風土／世界遺産を中心に	プラハ、チェスキー・クルムロフ、テルチ、ホラショヴィツェの歴史地区の歴史と佇まいについて。
第 10 回	チェコ：文学と映画をめぐって	プラハ・ドイツ語文学（リルケ、カフカ）を含め、ハシェク、カレル・チャペック、クンデラ、スヴェラークについて映画化された作品を紹介。思想統制下での実験的作品『ひなぎく』、チェコ人のメンタリティが濃厚な『コーリャ、愛のプラハ』を紹介。
第 11 回	チェコ：人形劇とアニメーション映画の世界	チェコ人の民族意識を支える人形劇、政治的諷刺を込めたトルンカのパペットアニメ、シュルレアリスムを極限まで追求したシュヴァンクマイエルの物体アニメ、国民的キャラのクルテクを生んだミレルの作品について。
第 12 回	エストニアの歴史外観：ソ連・ロシアとの関係	被抑圧と反抗の歴史からエストニアを概観。　e-Estonia（電子国家エストニア）の現状について。
第 13 回	エストニア：街並みと風土	首都タリンの旧市街、カドリオルグ宮殿、ワバム広場、「歌と踊りの祭典」について。
第 14 回	エストニア：文学と映画、音楽をめぐって	アンドルス・キヴィラフクの小説、ピレット・ラウドの絵本／映画『ノベンバー』（ライネル・サルネット監督）／アルボ・ペルトの音楽を通してエストニアの精霊信仰について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で紹介する映画、文学作品、音楽に、学生各人がもう一度触れる機会を設けてほしいと思います。映画作品の DVD ソフトは大学の AV ライブラリー、もしくは国際文化学部資料室にある場合が多く、文学作品は図書館で借りることができます。予習・復習を行う時間には毎回４時間以上、期末レポートの作成には、１週間程度かけてください。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。毎授業にて、教員が作成した資料を教場もしくは学習支援システムを通して配付します。

【参考書】
特定の参考書はありませんが、適宜、参考文献を教場もしくは学習支援システムにて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、コメントシート 30 %、期末レポート 20 %に基づき、総合的に判断します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
静かな環境を保ちつつ講義を進められるよう、配慮します。同時に、皆さんの協力に期待します。

【Outline (in English)】
● Course outline
In this course, students will know about the history, culture and arts of Russia and East Europe: Hungary, Poland and Czech Republic. Through this process you will understand and evaluate the rule of satellite countries and the nationalism.
● Learning Objectives
While watching videos about Russia,Eastern Europe and Estonia, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.
● Learning activities outside of classroom
Students should have the opportunity to re-watch the films, literary works, and music introduced in class. DVD software for movie works can be found in the AV library of the university or in the library of the Faculty of Intercultural Communication, and literary works can be borrowed at the library.Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.Please take about a week to create the term-end report.
● Grading Criteria /Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(50 %),Short reports(30 %) and term-end reports(20 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

PHL200GA

フランス語圏の文化Ⅰ（思想）

大中　一彌

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
［授業の目的］この授業では、17 世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が ― よくも悪くも ― 西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。
［授業の概要］
※世界史以外を受験のさいに選んだ人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
・デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17 世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16 世紀に探検した北アメリカの土地へは、17 世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令（1598 年）により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ４世である。これに続く 17 世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく 17 世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性がもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。
・17 世紀から 18 世紀前半にまたがるルイ 14 世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止（1685 年）によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント（オランダ）を屈服させようとしたルイ 14 世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ（約 2000 万人）にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちがつみあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ 14 世という君主の栄光を讃美する（現代でいう）プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。
・イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ 14 世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】
１．各回のテクストの講読をつうじて、16 世紀から 17 世紀にかけてのフランスにおける思想や文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
２．各回のテクストに登場する人物や作品から、そのなかに含まれている主題を、ステレオタイプに陥らずに、見いだす力を養う。
３．権力と正義、そして宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この授業は基本的に「対面」です。
・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムや Google Classroom を利用する場合があります。
・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入①：なぜこの科目？　高校２年生の視点から	映画「アデル、ブルーは熱い色」
第 2 回	導入②： 17 世紀の前には 16 世紀が（フランスにおけるルネサンス）	ラブレー『ガルガンチュワとパンタグリュエル』 モンテーニュ『随想録（エセー）』
第 3 回	「フランスの」思想？	石井洋二郎『フランス的思考』 アンドレ・シーグフリート『西欧の精神』 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説―まんがで読破―』
第 4 回	情念と理性　～ 秩序 vs 破壊的な混沌 ～	赤木昭三・赤木富美子『サロンの思想史』 ボワロー『詩法』 ラシーヌ『フェードル』
第 5 回	遠近法と劇のなかの劇　～ 距離と情念 ～①	バルトルシャイティス『アナモルフォーズ』 タピエ『バロック芸術』 コルネイユ『舞台は夢』
第 6 回	遠近法と劇のなかの劇　～ 距離と情念 ～②	バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』 ボーサン『ヴェルサイユの詩学』 フーコー『言葉と物』
第 7 回	「隠れた神」を読みとる	カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』 拙稿「自発的隷従とは何か」 高階秀爾（たかしな しゅうじ）『フランス絵画史』
第 8 回	「宮廷社会」と感情のゆくえ	エリアス『宮廷社会』 モリエール『町人貴族』『人間嫌い』 ラファイエット夫人『クレーヴの奥方』
第 9 回	中間ふりかえり	映画「王は踊る」
第 10 回	ヴァニタスと神の恩寵	フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニテ、あるいは人生の寓意（アレゴリー）」「1662 年の奉納画」 ルイ・コニュ『ジャンセニスム』 パスカル『田舎人への手紙（プロヴァンシャル）』

第 11 回　モラリストと仮面①	ラ・フォンテーヌ『寓話』から「セミとアリ」「寓話の力」「M・L・D・D・L・Rへ」 ファフ・ララージュ（ラッパー）「オオカミと仔ヒツジ」 マリアンヌ・ヴルシュ（ラジオ番組）「ジャン・ド・ラ・フォンテーヌまたは反抗する詩人」
第 12 回　モラリストと仮面②	ラ・ロシュフーコー『箴言（しんげん）集』 箴言 266 番「怠惰はまったく柔弱ではあるが、にもかかわらず、しばしば他の情念の支配者にならずにはいない」他
第 13 回　パスカルの賭け Pari pascalien	映画「モード家の一夜」 パスカル『パンセ』 『デュラス × ミッテラン対談集 パリ６区デュパン街の郵便局』 アントワーヌ・コンパニョン『パスカルと過ごす夏』から「パスカルとマルクス主義者」（ラジオ番組）
第 14 回　まとめ	あなたにはどの箴言が刺さりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（ア）予習は必要ありません。
（イ）授業にたいするコメントを書いてもらう場合があります。
（ウ）（イ）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点します。指定する LMS（学習支援システム-Hoppii の掲示板か Google Classroom のストリーム＞コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
（エ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（イ）（ウ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、２単位の講義及び演習の準備・復習時間は１回につき４時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】
・教科書を買う必要はありません。
・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。

【参考書】
参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994 年。
ジェラール・コルビオ監督『王は踊る』2000 年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969 年。
リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998 年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973 年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】
（ア）期末試験：実施しません（0%）
（イ）期末レポート：実施しません（0%）
（ウ）授業への参加（50%）
（エ）担当範囲外における発言など積極的な参加（40%）
（オ）その他（運営協力や講師のミスの指摘）（10%）
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17 世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください【学内生のみ、要統合認証】https://docs.google.com/document/d/1k6QWm-Hdj6ozZfzcQw4EuUyJKC3mlQxIxD1yG2uBVc8/edit?usp=sharing

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii 等）で行ないます。そのため、こうしたサイトを使うのに必要な情報環境はあったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
①法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
③履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
（※）この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語Ⅰ」「時事フランス語Ⅱ」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.
[Learning Objectives]
1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.
[Learning activities outside of classroom]
(a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.
［Grading Criteria］
(a) Class participation (50%)
(b) Active participation such as speaking outside the scope of the course (40%)
(c) Others (cooperation in administration and pointing out mistakes of the instructor) (10%)
* Based on this grading method, those who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class.

ART200GA

フランス語圏の文化Ⅱ（芸術）

岡村　民夫

配当年次／単位：1～4 年／ 2 単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**隔年開講**　｜　開講セメスター：**春学期授業**/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代フランスの絵画・写真・映画の歴史を概観し、芸術的・社会的な意義を学ぶ。

【到達目標】
エポック・メイキンギな芸術家や流派、作品の名前などを覚え、その歴史的意義や社会背景を説明できるようになる。あわせて、鑑賞力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
講義と関連作品の鑑賞・分析を交互に行う。
コメントシートに関するフィードバックは授業内や hoppii で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義のオリエンテーション
第 2 回	フランス古典主義	クロード・ロラン ニコラ・プッサン
第 3 回	新古典主義とロマン主義	ダヴィッド、アングル ドラクロワ
第 4 回	近代絵画のはじまり	写真の普及 写実主義 マネとボードレール
第 5 回	印象主義	モネ、ルノワール、ロダン
第 6 回	ポスト印象主義	スーラ、ゴーギャン、ゴッホ、セザンヌ
第 7 回	映画の誕生	リュミエール兄弟、メリエス
第 8 回	アヴァンギャルド１ （キュビスム、フォーヴィスム）	ピカソとマチス ドローネーの抽象絵画 ル・コルビュジエの建築
第 9 回	アヴァンギャルド２ （ダダイスム、シュルレアリスム）	デュシャン、エルンスト、ダリ、ブニュエル
第 10 回	エコール・ド・パリと詩的レアリスム	ユトリロ、藤田 クレール、ジャン・ルノワール
第 11 回	パリ写真	アジェ、ブラッサイ、カルチエ=ブレッソン
第 12 回	ヌーヴェル・ヴァーグ	バザン、トリュフォー、ゴダール
第 13 回	補遺	これまで取り上げられなかった重要芸術家 期末試験の説明
第 14 回	期末試験	期末試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布される資料を授業後によく読み復習すること。講義対象になった映画を自分で鑑賞することが望ましい。国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。
本授業の復習時間は１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリントで代用する。

【参考書】
中条省平『フランス映画史の誘惑』集英社新書
そのほかは随時挙げる。

【成績評価の方法と基準】
コメントシートやミニ・レポートによる平常点（50 %）＋期末試験（50 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
国立西洋美術館（上野）の常設展（無料）の観賞ミニ・レポートを課す。

【Outline (in English)】
【Course outline】We take a general view of history of French fine art, photography and movie.
【Leaning Objectives】The aim of this course are to know the outline of history of Morden French Arts, and to have an appreciation of great works.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hours for a class.
【Grading Criteria/Policies】Your overall grade in this class will be decided based on the following:
Term-end examination(50%), In-class contribution (50%)

HUMc200GA

北米文化論（ケベック講座）

廣松　勲

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、ケベック州政府の寄付講座である。
本授業は、北米のフランス語圏の一つである「カナダのケベック州」をフィールドとして、オムニバス形式で、各分野の専門家や招聘作家・研究者が担当する授業である。言語・文化・歴史・社会・政治といった包括的な側面から、現代のケベック社会を学ぶことによって、一つの地域において複数の価値観（言語、文化、歴史、政治、経済、社会など）が共生する方法を解説・検討することを主たる目的とする。
なお、具体的な授業内容や講演者については、初回授業において改めて通知するため、以下の「授業計画」は予定であることをご理解いただきたい。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の通りである。
①フランス語圏の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
②多文化・多言語共生の一例として、ケベック州の社会文化的状況を概説できる。
③一つのフィールドを複数の観点から理解するという方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
オムニバス形式の授業によって、できるだけ包括的に「現代のケベック社会」に関する紹介・説明・分析を行う。
具体的な授業の進め方は、以下の通りである。最初と最後の数回の授業（3 回程度）では、一人の教科担当者が「導入」や「総括」などを行う。それ以外の授業（11 回程度）については、各分野の専門家の先生方などが授業を行うことになる。その内、少なくとも一度は、ケベック州からの招聘研究者による授業内の講演会を実施する（通訳付き）。
なお、毎回授業ではコメントシートを作成・提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・イントロダクション：フランコフォニーとは何か？	・授業の進め方や最終課題について説明 ・フランス語圏（フランコフォニー）の歴史・社会・言語状況などについて概説
第 2 回	ケベック州の歴史① ・北米大陸のフランス語圏（フランコフォニー）の広がり ・ケベック州とはどのような地域なのか？	・ケベック州の歴史に注目しつつ、社会状況を概説する
第 3 回	ケベック州の歴史②	・ケベック州の歴史をより詳しく学ぶ
第 4 回	ケベック州の地理	・ケベック州の地理を学ぶ
第 5 回	授業内の講演会	・ケベック州の政治・歴状況を当事者から学ぶ
第 6 回	ケベック州の言語	・ケベック州の言語状況を包括的に学ぶ
第 7 回	ケベック州の政治①	・ケベック州の政治状況を具体例に基づいて学ぶ。
第 8 回	ケベック州の政治②	・ケベック州の政治状況を理論的に学ぶ。
第 9 回	ケベック州の社会問題①	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（主権獲得を巡る問題など）。
第 10 回	ケベック州の社会問題②	・ケベック州の社会問題を具体例に基づいて学ぶ（移民や宗教に関わる問題など）。
第 11 回	ケベック州の文化①	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（舞台芸術など）。
第 12 回	ケベック州の文化②	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（文学・映画など）。
第 13 回	ケベック州の文化③	・ケベック州の文化を具体例に基づいて学ぶ（音楽・ダンスなど）。
第 14 回	総括	・本授業の全体のまとめ ・映像資料などを用いて、現代ケベック州の社会を知る。 ・期末レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎回の授業をより深く理解するために、日頃からできるだけ広く・複合的な視点からケベック州（やカナダ）に関する情報を集めてほしい。
・期末レポート執筆のために、配布資料についても熟読してほしい。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・テキストは指定しない。各授業において資料などを配布する。

【参考書】
・各分野の参考書は、各授業において提示する。
・全体的な導入となる書籍としては、以下がある。
小畑精和・竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』エリアスタディーズ・72 巻，明石書店，2009 年.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。
①平常点（コメントシートなど）： 40 %
②期末レポート： 60 %
・期末レポートでは、本授業で扱われたいずれかの専門分野・側面を参照しつつ、自ら選択したテーマについて論じてもらう。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
・14 回という少ない回数だが、授業内容について、可能な限り多様になるよう心がける。
・質疑応答の時間を、可能な限り長く設けるようにする。

【その他の重要事項】
・第一回授業において、各授業の担当者・内容などを記載した資料を配布するため、必ず出席してほしいです。
・毎年度秋学期に開講予定の授業ですが、ケベック州政府寄付講座であるため、事情によって「閉講」となる年度もありえます。

【Outline (in English)】
This course introduces the key themes for a deeper understanding of the socio-cultural situation of the province of Québec (Canada). In 14 courses, we will deal with a variety of themes or problematics of the contemporary Québec (politics, social problems, economics, music, cinema, literature, etc). Each course will be given by the specialists of each research domain.
The goals of this course are to understanding and explaining the socio-cultural situation of Quebec.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings: in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 40%, term-end report: 60%.

ARSa400GA

地域協力・統合

大中　一彌

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：**毎年開講**　｜　開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ア〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介する動画（約 10 秒）をご覧ください https://youtube.com/shorts/Ro6Mhc34ck8 この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2022 年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単にご紹介させてください。まず、法学部なら、第２次世界大戦後の統合をめぐる政治史や EU の諸機構に焦点をあてるやり方がありえます（「EU の政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第２次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論Ａ」）。グローバル教養学部（GIS）には、中世ないし近代以降のヨーロッパ史に注目した授業があります（"European History", "History of Modern Europe"）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】
①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べることができる。
②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
③西ローマ帝国崩壊前後以降、10 世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】
・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoom を活用した授業参加も積極的にみとめています。
・授業時間（100 分）の前半 80 分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20 分）と講義（50-60 分）にあてています。
・授業時間（100 分）の後半 20 分程度を、グループディスカッションにあてています。
・毎回の授業資料は Google Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
・授業内容の録画を、受講者の個人情報の保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ
6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12 世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16 世紀-17 世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ペンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii 上で宿題として出される場合があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で２単位を得るのに必要な予習・復習の時間は１回につき４時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】
教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格（レターグレードで C マイナス以上）とします。
・期末テストは行いません　0%
・出席はとりません 0%
・小テストの受験【Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】60%
・運営への協力【協力してくれた方に加点しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】5%
・グループディスカッション＆学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】5%
・期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】30%

【学生の意見等からの気づき】
・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】
・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 https://docs.google.com/document/d/1N26CUUJPX-y1xflITEM4eYo7XOVtLF8bOY3BVZ7I1II/edit?usp=sharing

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a “continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".

2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.

3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.

4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.

5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.

6) Argueing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".

7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in this course will be decided based on the following:

- Quizzes on LMS-Hoppii - 60%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 5%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 5%
- Term paper (optional) - 30%

SSS300HA

災害政策論

中川　和之

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
備考（履修条件等）：**環コア：ロ**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。
そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】
①災害とは何かを、実例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるために Zoom も利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？　災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。ＧＷ期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。
第 4 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。
第 5 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。
第 6 回	３つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。
第 7 回	東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのぐらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

第 8 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第 9 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。
第 10 回	近年の風水害から、課題を考える	令和 2 年 7 月豪雨、2020 年 7 月豪雨や台風 10 号、2019 年台風 15 号や 19 号 (東日本台風)、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。
第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害を前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。
第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 14 回	試験レポート	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでもＯＫ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。

【テキスト（教科書)】
授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。

【参考書】
授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。

【成績評価の方法と基準】
平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリアペで授業内容の理解を評価）40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（試験レポート）評価 40 %。

【学生の意見等からの気づき】
災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoom のブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間を持ちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。

【その他の重要事項】
試験レポートの作成時には、時間内であればどういう資料を参考に書いても良い。

【実務経験のある教員による授業】
通信社記者として、1984 年の長野県西部地震や 1995 年の阪神大震災などを取材。2005 年から 2011 年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメント Web」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として 20 世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を 10 年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.
【Learning Objectives】
1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.
【Grading Criteria /Policy】
Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

PHL200HA

環境倫理学Ⅰ

吉永　明弘

配当年次／単位：1〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：文**

その他属性：〈他〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境倫理学は 1970 年にアメリカに誕生した応用倫理学の一分野であり、日本では 1990 年代に始まった若い分野である。本講義ではアメリカと日本の議論の違いに注目しながら環境倫理学の全体像を説明する。受講者はそれを通して倫理学的なアプローチの特色を学ぶことにもなる。

【到達目標】
アメリカの環境倫理学と日本の環境倫理学の歴史と中身について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。メールで質問を募り、授業に反映させる。チェックテストとレポートについては個別にメールで講評を行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	環境問題と倫理学理論	環境問題を「倫理学」の視点から学ぶための基礎となる理論を紹介する
2	環境問題と現代社会	環境問題が「現代社会」の仕組みに由来する問題であることを示す
3	環境問題からみた人類史	人類の歴史を環境問題の観点からまとめ直す
4	土地倫理と自然の権利	環境倫理学の原点とされる「土地倫理」と「自然の権利」を中心にアメリカの議論を紹介する
5	生物多様性の価値	生物多様性はなぜ保全すべきなのかについての議論を紹介する
6	加藤尚武の三つの基本主張	日本の環境倫理学の代表者による三つの主張を紹介する
7	鬼頭秀一のローカルな環境倫理	日本の環境倫理学の特徴である「ローカルな環境倫理」の内容について紹介する
8	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
9	リスク論	リスク論の概要を紹介する
10	公害の環境倫理	公害に関する映画を見て意見交換する
11	持続可能性と環境正義	持続可能性と環境正義について議論する
12	災後の環境倫理学：原子力発電について	原子力発電についての論点を紹介し議論する
13	災後の環境倫理学：復興のありかたについて	震災復興についての論点を紹介し議論する
14	人新世の環境倫理学	人新世と気候工学について概説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学』昭和堂、2020 年（序章、第 4 章〜第 10 章）

【参考書】
吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014 年
（第 1 章と第 2 章の内容が関連します）
吉永明弘『ブックガイド環境倫理』勁草書房、2017 年
吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018 年
吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマ―新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】
中間チェックテスト（40 点）と書評レポート（60 点）。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの時間を設けることにしました。

【Outline (in English)】
This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on environmental ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

TRS200HA

環境表象論Ⅰ

梶　裕史

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：口, 文**

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にどう捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために 1992 年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も 2005 年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながることが多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か　導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	ユネスコの「世界遺産」概説　その２	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）
第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（１）	日本の文化財の種類、内容
第 5 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（２）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第 6 回	文化的景観の多面的効用（１）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第 7 回	文化的景観の多面的効用（２）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第 8 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（１）	重要文化的景観第 1 号のまちの市民活動の歴史、特色
第 9 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（２）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第 10 回	精神文化と一体の景観（１）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第 11 回	精神文化と一体の景観（２）	沖縄の御嶽、富士山
第 12 回	精神文化と一体の景観（３）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第 13 回	精神文化と一体の景観（４）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第 14 回	総集編	初回～13 回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境］（第 2 版）第Ⅰ部第６章、ミネルヴァ書房、2021) ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 55 %、毎回の小テスト 45 %。小テストを 1 回も受けていないと、期末試験を受けても 60 点に達しないため、単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサスティナビリティーの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building , from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.
Work to be done outside of class
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.
We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria
Final exam 55%, each quiz 45%

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶　裕史

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：口, 文**

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：
「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特色ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】
・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることがメインではないと思って下さい。
一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／季節の周期変化と文化的景観	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第 2 回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第 3 回	有機的に進化する景観（2）―うつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第 4 回	有機的に進化する景観（3）―うつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第 5 回	有機的に進化する景観（4）―うつぐみの島・竹富島（後編）	島の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第 6 回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第 7 回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第 8 回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例
第 9 回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第 10 回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第 11 回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第 12 回	「残したい日本の音風景 100 選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第 13 回	「残したい日本の音風景 100 選」から（2）	伝統的な生業に関わる音風景　その他
第 14 回	総括―人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】
梶裕史「『文化的景観』の特質と可能性」（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境］（第 2 版）第Ⅰ部第６章、ミネルヴァ書房、2021) ほか、授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 55 %、毎回の小テスト 45 %。小テストを 1 回も受けていないと、期末試験を受けても 60 点未満となるため、単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】
環境表象論Ⅰとほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表像論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】
環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サスティナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】
Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"
For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.
Goal
・This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").
・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and unconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class
Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.
We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria
Final exam 75%, each quiz 25%

ENV300HA

環境科学 I

浦野　真弥

配当年次／単位：2〜4 年／ 2 単位
開講セメスター：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 5/Thu.5
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題には様々な形、構成要素がありますが、それらを捉える上で科学的な視点が極めて重要です。
この授業では、過去から現在の環境問題を俯瞰し、環境科学の役割を学んだ後、私たちの生活に関連の深い個別の分野について、環境科学の視点から学びます。
学生は、本授業によって、身のまわりの種々の環境問題が何故起きているのかを理解し、それらがどの様な要素を含むかを学ぶことができます。その学びの過程で、環境問題の捉え方や解決のための視点を身につけることを目指します。

【到達目標】
環境科学の基礎として、大気や室内環境、水環境、土壌環境、廃棄物、悪臭、騒音、振動、化学物質について学びます。
授業では特に身近な環境問題を取り巻く要素を理解し、問題が相互に関係し、多面的であることを学びます。
環境科学は環境問題解決の礎であり、学生は、この授業を履修することにより、身のまわりの環境について理解し、過去の問題がどの様に解決されたのか、また現在の状況と課題を理解できます。
過去の問題と解決のためのアプローチを理解することで、新たな問題を捉える方法や解決するための視点を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では環境に関わる諸問題について、分野を分けて一コマもしくは二コマを目途にパワーポイントを用いて説明します。なお、講義の内容は進行状況によって、変更になることがあります。
資料は前日の夕方までに Hoppii にアップします。
その授業に関連した問題について、授業終盤で小テストを行います。その回答について、その授業中、もしくは次の授業の冒頭に一部を紹介するなどして、問題の捉え方の幅の存在を学び、さらなる学びに繋げます。
最終講義は試験とまとめとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	環境問題の背景と環境科学の位置づけ、環境管理の方法、基準、環境技術
第 2 回	大気汚染	歴史、大気汚染物質の原因、健康影響、対策
第 3 回	大気汚染と室内汚染	その他の大気汚染物質、室内汚染、健康影響、対策
第 4 回	水環境、上水道	水資源、水循環、水道水の製造、水質と健康、費用
第 5 回	下水道	下水道、下水処理、富栄養化
第 6 回	水質汚染と管理	有害物質による汚染と管理
第 7 回	土壌汚染	土壌地下水汚染、調査、浄化
第 8 回	悪臭、騒音、振動	基礎、測定、対策
第 9 回	廃棄物	一般廃棄物の実態と処理
第 10 回	廃棄物	産業廃棄物の実態と処理
第 11 回	資源利用とリサイクル	資源利用、リサイクル法、リサイクル技術
第 12 回	化学物質の利用と影響	化学物質の利用と健康影響、生態系影響
第 13 回	化学物質の利用と管理	化学物質による環境汚染と管理
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備：次回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して概要を掴み、どこかに問題があるか、その原因はどこにあるかを考えてみてください。
前回の授業テーマについて、参考図書、インターネット情報などを参照して、今から出来る対策や改善策を考えてみてください。
調査では必ず複数の情報に当たる。考察では他の要素（例えば、経済活動や他の環境要素への影響）についても考えてください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
藤倉良、藤倉まなみ著、文系ための環境科学入門　新版、有斐閣
浦野紘平、浦野真弥著、地球環境問題がよくわかる本　改訂版、オーム社

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業内容の区切りで小テスト（30%）と期末テスト（70%）で行います。
評価は項目の基礎的な理解度、テーマに対する多角的視点からの要点整理と考察の程度によって行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【関連の深いコース】
環境科学 II
自然環境科学の基礎
自然環境論

【実務経験のある教員による授業】
環境に関連したコンサルティング業務を行った経験を有しており、科学的、基礎的な内容に加えて、適宜、事例を交えた講義を行い、理解の向上を図る。

【Outline (in English)】
【授業の概要 (Course outline)】
Environmental problems come in various shapes and components, and a scientific perspective is extremely important in understanding them.
In this class, we will look at environmental problems from the past to the present, and after learning the role of environmental science, we will learn about individual fields that are deeply related to our lives from the perspective of environmental science.
Through this class, students will be able to understand why various environmental problems are occurring around them and learn what elements they contain. In the process of learning, we aim to acquire perspectives for understanding and solving environmental problems.
【到達目標 (Learning Objectives)】
As the basis of environmental science, students will learn about the atmosphere, indoor environment, water environment, soil environment, waste, odors, noise, vibration, and chemical substances.
In class, students will understand the factors surrounding environmental issues that are particularly familiar to them, and will learn that issues are interrelated and multifaceted.
Environmental science is the foundation of solving environmental problems. By taking this class, students will be able to understand the environment around them, how past problems were solved.

By understanding past problems and approaches to solving them, we aim to acquire perspectives for understanding and solving new problems.
【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
For the next class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about whether there is a problem somewhere and where the cause lies.
For the previous class theme, refer to reference books, internet information, etc., get an overview, and think about what you can do from now on.
【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】
Grading will be done by quizzes (30%) and final exams (70%) according to class content.
Evaluation is based on the degree of basic comprehension of the item, and the degree of summary and consideration of the theme from multiple perspectives.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉　良

配当年次／単位：**2〜4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：サ**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには，科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】
以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。
・人口増加のパターンと要因
・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
・気候変動をめぐる社会
・越境大気汚染の原因と対策
・プラスチックごみ対策
・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。授業に用いたパワーポイントは，PDF にして Hoppii にアップしますので、事前にダウンロードしてください。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。
課題提出後の授業、または Hoppii において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その１（第７章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その２（第７章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その１（第８章）	ＩＰＣＣ、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その２（第８章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第 6 回	気候変動・その３（第８章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第 7 回	気候変動・その４（第８章）	化石燃料
第 8 回	気候変動・その５（第８章）	緩和策
第 9 回	気候変動・その６（第８章）	適応策
第 10 回	越境汚染（第９章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント
第 11 回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第 12 回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第 13 回	環境国際協力	事例研究
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤倉良・藤倉まなみ　『文系のための環境科学入門』　有斐閣コンパクト

【参考書】
講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は授業後の小テストによる出席 (30%) と期末試験（70%) で行います。

【学生の意見等からの気づき】
中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【実務経験のある教員による授業】
担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】
Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China (This is learning objectives). Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz (method to be determined) will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. The evaluation will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA

環境科学Ⅲ

石渡　幹夫

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位
開講セメスター：サマーセッション/Summer Session ｜ 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
備考（履修条件等）：環ｺｱ：サ

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は、自然資源を活用してさまざまな社会経済活動をしています。自然資源の不適切な利用は環境破壊を引き起こし持続不可能な開発へとつながります。自然資源が抱える問題、その管理政策や手法について論じ、環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。

【到達目標】
水、土壌、森林、水産などさまざまな資源について、利用と保全の歴史的な経緯から始まり、その性質、持続的な利用と管理についての基礎知識を習得します。これにより
・自然資源の問題について説明できるようになります。
・自然資源の利活用の意義について説明できるようになります。
・自然資源の持続的な利用と保全のための政策や管理方法について説明できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。
グループワークを行います。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は Hoppii でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	資源論の社会科学	授業のテーマや到達目標及び授業の方法についての解説
2	水資源の問題	世界はどういった水問題を抱えているか？
3	水関連災害	世界と日本の災害の現状と対策は？
4	土壌管理	土壌を保全し土砂災害を減らすには？
5	気候変動	気候変動は水資源にどう影響を与えるか
6	水資源管理（1）	日本の水資源管理の経験とは何か
7	水資源管理（2）	水資源を統合して管理するには
8	水関連施設訪問（1）	「東京都水道資料館（文京区本郷）に視察（水道橋駅より徒歩：交通費は自己負担）」　水道整備の歴史
9	水関連施設訪問（2）	近代水道
10	森林資源管理（1）	森林資源は社会や人々の生活にどのように影響するか？
11	森林資源管理（2）	森林保全の問題は何か？　どう管理するのか？
12	水産資源管理	自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？
13	循環型社会	自然資源の消費を抑制し、環境負荷を減らす社会はどうすれば作れるか？
14	まとめ	全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回 Hoppii で配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布します

【参考書】
日本の防災、世界の災害: 日本の経験と知恵を世界の防災に生かす　石渡幹夫
2016　鹿島出版会

【成績評価の方法と基準】
出席（３０％）
グループワーク（３０％）
レポート（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【関連の深いコース】
履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】
国土交通省、世界銀行、アジア開発銀行、国際協力機構にて、水資源管理、防災、都市管理などに従事。プロジェクトの実例を使って授業を行います。

【Outline (in English)】
Course outline
Modern society uses natural resources for a variety of socioeconomic activities. Excessive use of natural resources leads to environmental destruction and unsustainable development. This course aims to discuss the issues of managing natural resources, their management policies and methods, and to learn the scientific basis for mechanisms and strategies to deal with environmental issues.
Learning Objectives
Students will learn about basic resources such as water, soil, forests, and fisheries, starting with the historical background of their use and conservation, and their sustainable use and management. This will enable students to
- explain the problems of natural resources.
- explain the background and necessity of utilizing and conserving natural resources. and
- explain policies and management methods for sustainable use and conservation of natural resources.
Learning activities outside of the classroom
Please review using the resume distributed in Hoppii each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy
- attendance (３０％)
- group work（３０％）
- report (４０％)

ENV300HA

環境管理論Ⅰ

大岡　健三

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
備考（履修条件等）：**環コア：経, サ**

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【概要】ディズニー、コカ・コーラ、ユニリーバのように、地球温暖化などの気候変動に対応できESGやSDGsに対応したサステナビリティを理解する必要があります。したがって、このコースでは、水の浄化技術、リサイクル、環境法など、持続可能な環境管理の基本的な知識を学びます。
授業は、学生が環境管理と水質汚濁防止の基本的な方法を学び、理解できるように設計されています。また、河川、湖沼、海、土壌/地下水に関するさまざまな環境問題についても学びます。内容は、排水処理技術に加えて、環境法規制や公害事件についても扱います。
【到達目標】企業の環境経営、環境行政、各種国際活動に必要な実践的な環境知識を学びます。文系の一般学生が興味を持って学べるよう授業内容は分かりやすい内容にします。授業終了までに、学生は廃水を物理化学的および生物学的に浄化するための主要なスキルを学びます。このコースを受講する学生は、企業の環境管理者が使用するBOD/CODやサーキュラー エコノミーなど、多くの専門用語やコンセプトを理解することが期待されます。
【授業時間外の学習】講義/演習: 各クラスのミーティングの前後に、学生はコースの内容を理解するために4時間を費やすことが期待されます。 さらに、学生は学習支援システムで提供する教科書や関連記事を読むことが期待されています。
【採点基準・方針】
最終成績は、以下に基づいて計算されます。
期末試験： 70%、レポート： 30%

【到達目標】
脱炭素社会やGX（グリーントランスフォーメーション）、循環型社会などに関連する新しいコンセプトや用語も習得します。環境コンプライアンスの面から興味深い汚染事故も解説し公害防止の重要性を理解します。受講者は、水環境や環境汚染の原理原則をマスターし、環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化技術の基礎を習得します。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスは非常に興味深いです。
授業では米国大学の環境科学の知見や汚染事故、カナダ、アメリカ、ドイツ、マレーシア、ネパールなど海外情報も学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指します。実社会で役立つ環境技術と法令の理解を深めます。授業終了段階では, 公害防止管理者国家試験や民間検定などの技術と法規の専門用語や基本概念を問う基本問題が解けるよう目指します。これらは就職や公務員試験にも役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を原則としますが学習支援システムで要確認。毎回テーマに関するパワーポイントスライド等を使用、ビジュアルを多く利用します。講師は新聞や専門誌に毎月記事を掲載しているので、その記事なども教材にして学習し、マスコミ報道でよく耳にする環境キーワードを十分理解できるようにします。各論のテーマでは、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の環境管理や汚水処理の実際、汚染メカニズム等も解説します。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法も学びます。
テーマは各授業単位でなるべく完結させるので、1コマ飛ばしても（欠席しても）次回授業がスムーズに理解できるようにします。重要事項や難解かつ苦手なテーマは繰り返し説明します。授業は5月から教科書も使用する予定（生協で取扱い予定）で、学生からの建設的なコメントや要望などは次回講義等に可能な限り反映します。リアクションペーパーや課題なども授業中および学習支援システムでフィードバックします。（大学からの授業方針変更がありえるので適宜学習支援システムで確認してください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	全体の授業計画説明。国内外の環境事情。SDGsとESGに関連する環境管理。	当講座の概要について説明。国内外の映像などを見ながら環境汚染など国内外の環境事情。環境SDGsとESGと環境管理の関係など解説。
第2回	東京ディズニーリゾートなどの環境管理、環境法令全般、水質環境基準	生物多様性など含む実際の企業における環境管理を解説。環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。
第3回	コカ・コーラやビール会社の環境管理。法令の読み方、水質汚濁防止法と排水規制、水田の水質悪化事件	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の解説。具体的事例の説明。
第4回	ダイオキシン騒動。水質汚濁防止法の誕生秘話。日本の水質汚濁の現状と原因	ダイオキシンの土壌汚染など。水濁法の誕生の裏話。水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第5回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水の汚染メカニズムを理解する。有機溶剤による汚染事例を解説。
第6回	ドイツ工場を例にして、物理化学的処理法	排水処理の全体像、終末沈降速度、傾斜版、凝集沈殿など物理処理法をわかりやすく解説。海外の技術にも触れる。
第7回	ろ過法を中心とした物理処理法	ろ過メカニズムと急速ろ過、アンスラサイトとザクロ石（ガーネット）、逆流洗浄、浸漬型膜分離活性汚泥法（MBR）などの原理を学ぶ。
第8回	物理化学的処理法	酸化還元、pH調整、酸化還元の原理などの基本及び逆浸透ROなど高度な技術を解説。
第9回	生物処理法の概要と基礎	異化と同化、排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第10回	生物処理法の好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。
第11回	活性炭による高度処理法	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理について学ぶ。
第12回	汚泥脱水、処理装置の維持管理。	活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術を学ぶ。物理化学的処理の維持管理。
第13回	確認テストを実施。BODとCOD、溶存酸素DOなど用語解説。環境法令など授業の復習	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

第 14 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎 河川水質調査の写真解説、時間があれば授業内テストの解説	環境測定で使用する汚濁指標など知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習と全体のまとめ。また、最終テストのフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。Web 公開されている公害防止管理者等国家試験などの過去問を授業中に時々使用することがある。
テキストは「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023（4 月発行）。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。

【テキスト（教科書）】
毎回 PP スライドで解説。５月からは教科書を併用します。
「ケーススタディで学ぶ環境管理の基礎」日刊工業新聞社 2023 年４月発刊予定

【参考書】
「新・公害防止の技術と法規　水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題　正解とヒント　水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」
上記３冊の発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
授業中の課題提出に対し、その記載内容を評価する (30%)。択一式中心の簡単な最終テスト（70%）で評価。60 点以上が合格。大学方針により対面授業が中止になった場合は hoppii で代替策を通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の共通する質問や意見は可能な限り次回授業の資料に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが必要。
パソコンで週に 1 回以上は必ず資料をダウンロードして学習すること。

【その他の重要事項】
高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業を進める。
環境法令は理屈でなく、製造工場など事業者の視点で実務的内容を解説する。
（過去に経済・経営など他学部の学生が数多く受講しているが受講後の満足度は高い。）

【実務経験のある教員による授業】
講師は米国企業で長年の勤務経験があり、国内で環境コンサルタントや大規模な汚水処理事業所の責任者も経験している。その実務経験と知識により複数の海外政府向けに環境教育を実施している。米国勤務や JICA 専門家海外派遣などの経験をベースに、世界レベルのトピックスや教材も授業で時々利用する。

【Outline (in English)】
Like Disney, Coca-Cola and Unilever, it is necessary for students to understand sustainability that is compatible with ESG and SDGs and that can respond to climate changes such as global warming. Therefore, in this course, you will learn basic knowledge of sustainable environmental management, including water purification technology, recycling and environmental laws.
This course is designed to help students learn and understand the environmental management and the basic methods on water pollution control. You will also learn the various environmental issues on lakes, streams, ocean and soil/groundwater. In addition to wastewater treatment techniques, this course deals with the environmental laws and regulations as well as pollution incidents.
[Learning objectives] You can learn practical environmental knowledge required for corporate environmental management, environmental administration, and various international activities. The content of the class should be easy to understand so that liberal arts students can learn with interest. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically.
By this course, students taking this course are expected to understand a number of technical terms and environmental concepts including BOD/COD and Circular Economy, that are used by the environmental managers.
[Learning activities outside of classroom] Lecture/Exercise: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Further, students are expected to read textbooks and/or relevant articles provided by Hoppii.
[Grading Criteria/Policies]
Final grade will be calculated based on the followings.
Term-end examination:70%, Short reports: 30%.

ENV300HA

環境管理論Ⅱ

大野　香代

配当年次／単位：**1～4 年／ 2 単位**
開講セメスター：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
備考（履修条件等）：**環ｺｱ：経, サ**

その他属性：〈他〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境管理論Ⅱでは、企業の生産活動により排出される大気汚染物質を管理,
抑制するための、関連法令や技術について学びます。国際的に脱炭素社会への変換が進む中、企業の ESG（環境、社会、ガバナンス）への取組が益々重要視されてきています。企業は大気、水質、土壌の汚染防止、騒音振動防止、廃棄物管理等の公害防止に加え、二酸化炭素等の温暖化物質の排出削減に向け、様々な取組を行う必要に迫られています。
　本講義では、大気汚染問題の原因や課題について、地球温暖化問題から PM2.5 汚染まで幅広い内容を学びます。大気関連の法律体系や行政施策及び、硫黄酸化物やばいじん等の発生源やその処理技術、測定方法についての科学的な事柄等、企業における環境管理の基礎的知識を学びます。
公害防止管理者国家資格（大気）の取得を目指す学生にとっても基礎となる知識を取得することができます。

【到達目標】
近年の国内外の大気汚染問題について、その原因、対策、課題について理解する。環境基本法、大気汚染防止法等の大気関連の規制及び国の政策について知る。大気汚染物を発生する各種生産活動、大気汚染物物質の処理方法及び測定方法につて理解する。企業における環境管理の活動について自ら調べ、各産業における課題と対策について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、シラバスに記載されているテーマに関する資料を配布し、講義を行う。2 回程度課題を出すので、数名のグループでディスカッションを行い、レポートにまとめ、授業内で発表する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大気汚染の歴史と公害防止対策	日本の公害問題の歴史ついて学ぶ。企業の公害防止組織について学ぶ。
第 2 回	近年の大気環境問題（その１）	気候変動への国際的な取組やその他の大気環境問題について学ぶ。
第 3 回	近年の大気環境問題（その２）	国内の大気の状況について、環境基準の達成率や PM2.5 及び光化学オキシダントの問題について学ぶ。
第 4 回	大気保全のための各種法律	大気に関する各種法律の概要（環境基準、排出基準等）を学ぶ。また、近年の日本の大気環境状況について学ぶ。
第 5 回	大気汚染の発生源及び発生メカニズム	大気汚染物質を発生する産業活動、大気汚染物質の種類と発生メカニズム。
第 6 回	アクティブラーニング課題１	各業種における大気環境保全のための活動を調査し、その特徴をまとめる。SDG ｓの 17 のゴールとの関連についても考察する。
第 7 回	燃焼管理技術	燃料の種類や燃焼計算について学ぶ。効率的な燃焼管理及び熱回収等の省エネ技術について学ぶ。
第 8 回	硫黄酸化物の処理技術	排ガス中の硫黄酸化物の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 9 回	窒素酸化物の処理技術	排ガス中の窒素酸化物及びその他の有害物質の排出低減及び処理技術について学ぶ。
第 10 回	集じん技術	排ガス中のばいじんや粉じんの除去技術について学ぶ。
第 11 回	アクティブラーニング課題２	企業の環境管理に関連する課題を出すので、それについて調査し、考察する。
第 12 回	大気のモニタリング技術と排ガス測定技術	大気の常時監視モニタリングの方法及び排ガスの測定方法について学ぶ。
第 13 回	排ガスの大気拡散	大気汚染物質の大気拡散について学ぶ。工場近隣への大気汚染物質の影響を知るための拡散モデルについて学ぶ。
第 14 回	期末テスト	期末テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習は事前に配布された資料を読み、分からない用語等は事前に調べ勉強する。復習は講義で勉強した内容を講義資料を中心に復習し、分からなかった部分については、インターネットや関連文献を調査し、理解するようにする。さらに、興味のもったテーマについて、自分なりに調べ、より深く理解するように努める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）の講義に関連するところを読んで学習する。授業の準備学習・復習時間は各 2 時間とする。

【参考書】
新・公害防止の技術と法規　（大気編）　発行所　（一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】
レポート 2 回の評価　各２０ (%)× ２　期末テスト６０（%）

【学生の意見等からの気づき】
化学式や数式が出てくると、難しく感じるとの意見が多いので、排ガス処理技術等の説明では、なるべく数式を使用せず、図を多用して視覚的、直観的に原理が理解できるよう、工夫することとする。

【学生が準備すべき機器他】
授業内で配布した資料

【その他の重要事項】
担当教員はアジア諸国への公害防止管理のための技術及び法制度支援を 10 年以上行っている。また、水質や大気質の計測、環境マネジメント、環境ファイナンス、気候変動緩和・適応に関する国際標準規格（ISO）の国際エキスパートとして、規格策定を行っている。これらの実務経験を活かし、本講義では大気汚染に係る国内外の環境問題の最新動向を講義に織り交ぜることで、将来、企業において自ら考え、環境に配慮した経済活動が行えるような人材を育成する。

【関連の深いコース】
サステイナブル経済・経営コース、環境サイエンスコース

【Outline (in English)】
Course outline ：

Environmental Management II, students learn about the relevant laws and regulations and technologies to manage the air pollutants emitted by corporate production activities.The transformation to a decarbonized society is accelerating. In this situation, ESG (Environmental, Social and Governance) initiatives of corporation are becoming more and more important. In addition to conventional pollution prevention measures such as air, water, and soil pollution control, noise and vibration control, and waste management, companies are now faced with the need to take various measures to reduce emissions of carbon dioxide and other global warming substances.

In this lecture, we will learn about the causes and issues of air pollution problems, ranging from global warming to PM2.5 pollution. In addition, students learn about the legal system and administrative measures related to air quality, as well as the sources of sulfur oxides and soot and dust, and scientific matters related to their treatment technologies and measurement methods.

Students aiming to obtain the national qualification for pollution Control manager (Air) can acquire basic knowledge.

Learning Objectives ：

-To understand the causes, countermeasures, and issues regarding recent air pollution problems in Japan and abroad.

-To understand the Basic Environment Law, Air Pollution Control Law, and other air-related regulations and national policies.

-To understand the various production activities that generate air pollutants, and the treatment and measurement methods of air pollutants.

-To investigate the environmental management activities of companies and to think about the issues and measures in each industry.

Learning activities outside of classroom ：

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy ：

Each Report ：　20(%) × 2 times

Term-end examination: 60 (%)

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅰ　展開科目

佐藤　恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつつ暮らしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。
オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と＜子ども＞の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、＜子ども＞へのまなざしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史的変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史的変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史的変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなざし方の変化	第 3 回の＜子ども＞の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第 11 回	歴史と社会を見る目（1）	コミュニティの健全性に関するデュルケームの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う
第 12 回	歴史と社会を見る目（2）	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目（3）	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.
（Learning Objectives）
At the end of the course, you are expected to A and B.
− A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
− B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ　展開科目

佐藤　恵

単位数：2 単位　｜　開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3　｜　配当年次：2〜4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】
（1）社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
（2）コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デイプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。
オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。
講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。
毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病理的見方）の歴史を把握する
第 2 回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第 3 回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第 4 回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第 5 回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第 4 回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第 6 回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第 7 回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第 6 回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第 8 回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第 9 回	社会史的視点（1）	19 世紀末から 20 世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第 10 回	社会史的視点（2）	20 世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第 11 回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆的生活の様相について理解する
第 12 回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる
第 13 回	歴史と社会の再生産	第 12 回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第 5 回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する
第 14 回	まとめ・総括	比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のベースをつくることです。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（７０％）、平常点（３０％）。
期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。
平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。
欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。
なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】
身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison.
（Learning Objectives）
At the end of the course, you are expected to A and B.
− A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.
− B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.
（Learning activities outside of classroom）
You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

MEC300XB

音響工学

御法川　学

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械から発生する騒音を抑制し、快適な音環境を創出するには、音響に関する基礎の習得が必要である。本講義では、波動現象としての騒音の取扱い、聴覚の特性、騒音の発生、伝搬メカニズム、消音法、測定・評価手法などを概説する。また、騒音防止に関する公的資格試験を見据えた演習を取り入れて実践的理解を深める。

【到達目標】
基本的な騒音の諸量、発生メカニズム、低減法などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義では、機械力学、流体力学など基礎力学の工学的応用の一つとして、騒音防止を位置付けている。また、環境問題を解決する実践的な技術を習得することを目的とする。実務的な内容を多く含むので、演習問題を解くことによって理解を深めていく。継続的かつ積極的に授業に参加されたい。
提出された課題に対して適宜フィードバックを行うとともに、その後の授業内容に対してそれを反映する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音響、騒音とは	物理現象としての音波の基礎量、聴覚を前提とした騒音の基礎量について学ぶ。音波は空気の振動であり、時間的に変化しているが、工学上は平均値を用いるのが都合がよく、振動波形の平均化と実効値について学ぶ。
第 2 回	騒音の基礎的な計算	騒音の大きさを示す基本的な量である、音のパワー、音の強さ、音圧およびそれらの表記法であるレベル（デシベルによる表記）について学び、簡単なデシベルの計算を演習する。
第 3 回	聴覚と騒音	騒音は物理現象である音波を聴覚の特性を含めた量で表現する。聴覚の特性（音の大きさや周波数の特性）を考慮した騒音レベル、マスキング効果などについて学ぶ。
第 4 回	騒音の諸量	環境騒音の大きさは時間的に一定ではないことが多いため、変動する騒音の時間平均の方法と評価量である時間率騒音レベル、透過騒音レベルなどについて学び、計算方法を理解する。
第 5 回	波動現象としての騒音 (1)	騒音は工学上は平均値で表すことが多いが、騒音のシミュレーションを精密に行うためには、時間・空間上の音波の表記が必要である。音響伝搬の基礎式である波動方程式の導出を通じて、音圧、粒子速度、音速、インピーダンスといった音響伝搬における基礎量を理解する。
第 6 回	波動現象としての騒音 (2)	1 次元の波動方程式の導出を行った後、簡単な条件である 1 次元ダクト（平面音波）内を伝搬する波動方程式を理論的に解き、境界条件とともに波動の振る舞いを理解する。また、境界条件によって生じる定在波の様子、音波の反射率、透過率について理解する。
第 7 回	騒音の測定と分析 (1)	実用上必須となる騒音レベルの測定および測定器について学ぶ。騒音計の規格、構造と機能について学ぶ。また、騒音測定に使用されるマイクロホンの種類と原理についても学ぶ。
第 8 回	総合演習	第 1 回から第 7 回の内容を演習によって確認する。音圧レベル、騒音レベルの計算、時間率騒音レベル・透過騒音レベルの算出等について、演習により理解を深める。
第 9 回	騒音の測定と分析 (2)	騒音の原因特定や静音化対策において必須である周波数分析法について学ぶ。代表的な分析法である FFT 分析およびオクターブ分析について、原理と特徴について理解する。また、これらの周波数分析器の原理と特性について学ぶ。
第 10 回	具体的な騒音対策 (1)	最も一般的な騒音の伝搬系対策としての吸音、遮音による方法を学ぶ。防音塀による遮音、室内吸音による防音、壁における透過損失について、原理と計算方法を学ぶ。
第 11 回	具体的な騒音対策 (2)	産業機器やプラント機器におけるダクト内を伝搬する騒音の対策法として、消音器による騒音低減法について学ぶ。吸音型、共鳴型、膨張型、アクティブ型などの各種消音法について紹介し、簡単な消音器の設計を通じて理解を深める。
第 12 回	具体的な騒音対策 (3)	ファンやタービンといった流体機械や、自動車や新幹線、航空機といった交通機械から発生する空力騒音（風切り音）について学ぶ。Lighthill の空力音響理論、発生音の特性などについて、簡単な計算を通じて見積もりを行う。また、空力騒音の静音化手法についても触れる。
第 13 回	快適な音環境を目指して	騒音は聴覚の主観量であり、心理的に適切な評価および対策が有効である。規格化されている騒音の音質評価量であるラウドネスおよびこれをベースにした各種の音質評価指標について触れ、音質向上設計の実例を紹介しながら、これからの騒音対策について展望する。
第 14 回	総合演習	第 9 回から第 13 回の内容について、演習問題により理解を深める。総合透過損失の計算、吸音型消音器の設計、空力騒音の卓越周波数の計算などを行う。また、定期試験に向けた総合的な復習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】音の計算には対数を多用しますので、対数計算を復習のこと。

【テキスト（教科書）】
鈴木昭次ほか著：「機械音響工学」、コロナ社

【参考書】
特にありません

【成績評価の方法と基準】
評価方法：　各演習の回答内容（50 %）、期末試験（50 %）で評価する。
評価基準：　本科目において設定した達成目標を 60 %以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
演習を踏まえ、より実践的な理解を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
プロジェクターを使用します。

【その他の重要事項】
国内外での企業実務経験、海外大学での研究経験を持つ教員が、その経験を活かし、研究や実務面での応用を踏まえた上で講義を行う。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to suppress the noise generated from the machine and to create a comfortable sound environment, it is necessary to master the fundamentals related to sound. In this lecture, we will outline the handling of noise as a wave phenomenon, characteristics of auditory sense, occurrence of noise, propagation mechanism, silencing method, measurement and evaluation method. In addition, practical understanding will be deepened by incorporating exercises aiming at public qualification examination on noise prevention.
【Learning Objectives】
Understand basic noise quantities, generation mechanisms, and reduction methods.
【Learning activities outside of classroom】

The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Review of logarithmic calculations, as logarithms are often used in sound calculations.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation method: Each exercise will be evaluated based on the answers (50%) and the final exam (50%).
Evaluation criteria: Students who have achieved 60% or more of the objectives set for this course will pass the course.

MEC400XB

環境工学

西井　啓典

開講時期：**春学期授業**/Spring

その他属性：〈実〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
機械工学科の学生の多くは、メーカに就職し、設計業務に携わる。製品設計には環境配慮が欠かせない時代になっている。技術者あるいは社会人として必要な環境関連の知識を得るとともに、その重要性を認識する。また、環境、エネルギー、福祉等は将来的にも重要分野で、社会人として環境に係る基礎知識を身につけることは、今後の人生にとって有意義である。

【到達目標】
1. 典型 7 公害についての基本事項、防止装置の機械的要素等について理解する。
2. 環境管理、環境影響評価、リサイクル・リユース、ゼロエミッションなどの循環型社会に於ける役割について理解する。
3. 地球温暖化、再生可能エネルギー等について学び、日本のエネルギー基本計画との係りを理解する。
4. 環境問題全般について広く学び、地球環境を維持するため、社会貢献の心を養う。
5. 企業における環境関連製品の研究開発、プロジェクトの受注から納入までの流れの事例により実業務の一端を知る。
6. 最先端の水質汚濁防止技術の動向に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
資料を配布し、パワーポイントを用いて、環境装置の写真なども見ながら、講義を行い、環境全般について理解してもらう。並行して、技術開発、先端技術など社会の実情をトピックスとして紹介する。提出された課題レポートから幾つか取り上げ講評や解説を行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	環境概論	環境工学の講義内容、進め方、トピックスについて説明する。環境基本法、気候変動枠組条約締約国会議の状況、SDGs 等の概要について解説する。
2 回	環境問題の歴史と発展	環境問題の変遷について学習し、過去の環境関連事故の事例に学ぶ。なお、トピックスは基本的に毎回、紹介する。
3 回	大気汚染	大気汚染の原因、評価、低減装置（脱硫、脱硝、集じん装置）等について学ぶ。
4 回	水質汚濁 (1)	水質汚濁の変遷、防止対策及び技術の概要について学ぶ。
5 回	水質汚濁 (2)	水質汚濁の原因、評価、活性汚泥法など水処理技術等について学ぶ。
6 回	土壌汚染、地盤沈下	土壌汚染、地盤沈下の原因、評価、防止技術等について学ぶ。
7 回	悪臭	悪臭物質の基礎、発生原因と防止技術等について学ぶ。
8 回	騒音	騒音の基礎、騒音苦情の実態、評価、防止技術（消音器、防音壁）等について最新技術を交えて学ぶ。
9 回	振動	振動苦情の実態、振動の基礎、評価、防止技術（防振、制振、免震、動吸振器）等について学ぶ。
10 回	廃棄物	焼却設備など廃棄物処理方法、処分場等について学ぶ。
11 回	リサイクル、リユース	循環型社会の形成に必要な、家電・建築・自動車・容器包装などリサイクルの方法・実態、各種リユースについて学ぶ。
12 回	地球温暖化、新エネルギー	地球温暖化の原因と防止策、新 (再生可能) エネルギー等について学ぶ。
13 回	放射能、ゼロエミッション	放射能の基礎、影響、復旧策、ゼロエミッションによる循環型社会の構築等について学ぶ。
14 回	環境管理と環境監査、環境影響評価 (環境アセスメント)	環境 ISO（ISO14001）の考え方と仕組み、環境影響評価 (アセスメント) 等について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】環境問題は日々、新たな問題が発生している。最新情報を得るためには、新聞やインターネットなど、情報に敏感になることが大切である。
また、身の周りで起こる事象、製品・装置のﾒｶﾆｽﾞﾑ等に疑問を持ち、考える習慣をつけることで、技術的センスが養われ、このことが将来、技術者としての成長につながる。

【テキスト（教科書）】
講義毎に自作の資料を配布、または学習支援システムに資料を添付する。

【参考書】
新公害防止の技術と法規　産業環境管理協会
（大気編、水質編、騒音・振動編など）
環境省、国交省、総務省などの各省、機械学会など各種学会の Web.
松信八十男　著　地球環境論入門　サイエンス社
福田基一　他著　環境工学概論　培風館
久保田宏　他著　廃棄物工学　培風館

【成績評価の方法と基準】
課題レポート（５０％）と春学期試験（５０％）を合わせて評価する。100 点満点とし、60 点以上を合格とする。
課題レポートは環境に関する話題について、現状、問題点、解決方法、自分の考えなどをまとめ（１５００字以上）、６月末頃 (別途指示) に提出する。
春学期試験は、テーマ毎に出題した中から、春学期試験時に受講者が選択 (別途指示) して回答する。
90～100 点を S
87～89 点を A+
83～86 点を A
80～82 点を A-
77～79 点を B+
73～76 点を B
70～72 点を B-
67～69 点を C+
63～66 点を C
60～62 点を C-
0～59 点を D(不合格)
未受験, 採点不能を E(不合格)

【学生の意見等からの気づき】
企業の新製品開発の実情、大型案件の受注活動から設計、製作、建設、納品に至る一連のプロジェクト業務の流れ、海外視察・学会などの体験談等々、トピックスとして紹介した事項が興味深かく、有益だったとの意見が散見された。今年度も継続させることを考えている。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
大部分の学生は、卒業すると就職し、夫々の所属先で活躍することになる。人間として、技術者として成長するための心掛けなど、社会人として役立つ情報を紹介したいと考えている。
企業で長年、実業務（技術開発、ライン業務、プロジェクト業務）に携わり、また、豊富な学会活動などに基づいた経験談（事例）、最新技術などを紹介する。

【Outline (in English)】
Outline
Many students of the machinist subject find a job in the maker and are engaged in design duties. It is the times when environmental consideration is indispensable to a product design. I get necessary environment-related knowledge as an engineer or a member of society and recognize the importance. In addition, it is significant for the future life that environment, energy, the welfare acquire basic knowledge to affect environment as a member of society in the future in an important field.
Learning Objective
1.I understand a basic matter about the model 7 pollution, the mechanical element of the prevention device.
2.I understand a role in recycling society such as environmental management, an environmental assessment, recycling reuse, the zero-emission.
3. I learn about global warming, renewable energy and understand the Japanese basic engery plan.
4. I develop a heart of the contribution to society to learn about overall environmental problem widely, and to maintain a global environment.
5.I know one end of true duties by the example of flows from the research and development of the environmental product in the company concerned, the order of the large-scale project to the delivery.
6.I know the trend of the advanced technique of the field of sound.
Learning activities outside of classroom

A new problem produces the environmental problem every day. It is important to become sensitive to a newspaper and information including the Internet to get the latest information.
In addition, I have a question toward a phenomenon to be caused around the body, the mechanism of a product, the device, and a technical sense is fed, and this is connected for the growth as the engineer in the future by touching a custom to think about.
Grading Criteria/Policy
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination : 50%, Short reports : 50%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌Ａ　2017 年度以降入学者

加藤　美雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】
・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
・自然環境の変化による異常気象を把握する。
・自然環境変化の予測を考察する。
・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。
授業の進め方は２部構成とし、第１に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第２に、加速する様々な異常気象について説明する。
授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。
なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。
また、第 1 回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席し、試験を受けること。
なお、第 1 回目の授業は Zoom によるオンラインで実施する。
また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 大気の鉛直構造と運動	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。 更に今後の講義に必要となる大気の鉛直構造と大規模な大気の運動について解説する。
2	オゾンホール１（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
3	オゾンホール２（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染１（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染２（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策ついて説明する。
7	人為による気候の改変１（ヒートアイランドⅠ）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変２（ヒートアイランドⅡ）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変３（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象１（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象２（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象３（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象４（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	東日本大震災と自然環境問題 まとめ	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】
・異常気象を知りつくす本．佐藤典人著．インデックス・コミュニケーションズ
・成層圏オゾンが生物を守る．関口理郎著．成山堂
・ここまでわかった「黄砂」の正体．三上正男著．五月書房
・ヒートアイランドと都市緑化．山口隆子著．成山堂
・カルスト-その環境と人々とのかかわり．漆原和子編．大明堂
・新百万人の天気教室．白木正規著．成山堂書店

【成績評価の方法と基準】
評価の配分は以下の通りである。
・平常点　：２０％
・小テスト：４０％
・レポート：４０％

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions.　Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌Ｂ　2017 年度以降入学者

加藤　美雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈Ｓ〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】
・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
・地球温暖化の予測を考察する。
・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。
授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。
授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。
なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。
また、オンライン授業に移行した場合は、Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20 世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海氷）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海氷の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策１（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表された IPCC 第 6 次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策２（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、３年前に日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策 1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策２（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。 更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】
・地球温暖化時代の異常気象．吉野正敏著．成山堂書店
・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－．吉野正敏著．古今書院
・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－．日本気象学会 地球環境問題委員会編．朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
評価の配分は以下の通りである。
・平常点　：２０％
・小テスト：４０％
・レポート：４０％

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や天気など用いて分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation : 20%.

法政大学
HOSEI University